

は不平を云ふ習慣。第六は自分を満足させる爲に、屢々社交的集會に出席することでありませぬ。

1. 負債する事。パウロは愛の外何物をも人に負ふこと勿れと申して居ります。(羅一三ノ八)彼が之を書いた時には、其讀者が自然に之を了解する意味で書いたのであります。彼は漂泊の生活を送り、又赤貧であつたから、(哥前四ノ十一)屢々負債をしたに違ひありませぬ。然し彼の品性から考へて見ると、同種類の品物で返却することを希望された時には何時でも其の通りにし、又或時には——多分品物で返す時にも——借りた物に數倍する靈の恵を以て返へしたに相違ありませぬ。(哥前九ノ十一)義人として彼を受けた人々は、義人のみが與へ得る貨幣にて支拂ひを受けました。(太一〇ノ四一)我等の主も亦身を卑うして、人の貸す物を多く借り給ひました。彼は借りたる既に横はり、彼の身體は借りたる墓に置

かれ給ふた」と云ふ事が眞であるのみならず、エルサレムへ凱旋し給ふた時ですら、乗り給ふた動物と、布き給ふた衣服は、他人の物でありました。

(太二一ノ二—七)其の如く最後の晚餐の室も、(太二六ノ一七—二〇)獨苦しみ給ふた園も人の物でありました。(約一八ノ一、二)彼には自分の家なく、(太八ノ二〇)又沒收されることの出来た地上の所有物は、十字架の側の兵士等が賞與品として要求した縫目なき衣物、及び他の衣物丈けてあつたから、(約一九ノ二三、二四)婦人等の奉仕と、(路八ノ二三)共同の財布より支拂はれた金がありしに拘はらず、(約一三ノ二九)を比較せよ。借りた物を斷えず使用し給ふたに相違ありませぬ。然し不注意或は怠慢の爲、借りた物品を返へし給はなかつたり、或は元の品よりは價を増さずに返へし給ふたとは考へられませぬ。彼が地上に於て教へ給ふた時に、彼の弟子等の上に注ぎ、天に上り給ふた時に、人々への賜物に於て繼續し給ふた無比

の靈的惠の事は申しませぬが、(弗四ノ八)又潔め、静め、愈し、強むる惠を與へた彼の醫愈の事業全體は申しませぬが、(徒一〇ノ三八)彼の宿り給ふた地は、其宿り給ふた事に由つて、數百年の間、此世の黄金ゴルドの流が、其處に流れ込んで居ると云ふことを記憶しなければなりません。其地は彼の御足にて踏まれ、彼の生涯と事業とに由つて祝されたから、此世の凡の國々に勝る名譽の地位に上げられました。彼が幾度元金を返へし給ふたか、又何時にも借り給ふた金の莫大なる利子を拂ひ給ふたことを誰か計算することが出来ませうか。

説教者は他の職業を執る人の如く時としては事務的に金を借ることがあります。若し證書を渡し、拂ふべき時に必ず拂ひ、契約書の文字を守りて貸主を満足させますならば、パウロの命令を破ることはなりません。又説教者は己が生涯の事業の爲、自らを適當なるものとせんが爲に、其唯

一の手段として、友人、慈善家、學校、或は教育會より金を借りても差支ありません。若し正直な正しい方法にて、自分に對する凡の要求に應じますならば、愛の外に何物かを負ひつゝあると云ふことは出来ませぬ。又説教者は書物の如きものを友人から借りてもよろしい。斯う云も物を借りぬ説教者はありませうか。若し返すべき時に、借りた時と同じやうな様で返しますならば、殊に其内容を傳道の爲に利用したのでありますならば、彼は主の預言者の指圖に由つて、少からざる器を借りた婦人がしたよりは猶其れ以上の事をして居るのではありますまい。(王下四ノ三七路十一ノ五に、夜半に突然來た客の爲に、三つのパンを借ることは善くないと教へてありませぬ。詩三七ノ二一と對照せよ。)彼はパウロの命令の精神を破りませぬ。

此は皆眞てありますけれども、或る説教者は不必要なる負債をして、講壇

に於ける説教の力を弱くし、又講壇外に於て説教の結果を大に害ひます。拂ふ目當の無いのに、本屋、服屋、或は其他の所で無暗に借をします。拂ふことの出来ぬ事、或は拂はぬ事、或は構はぬ事を知りながら、之を「借り」と申します。(ロリマー博士は収入以上の生活に就て、非常によい演説をしましたが、其動機と材料とは、ジョンソンがボスウエルに與へた次の賢き諫告から出て來たと申して居ります。「汝の有てる物にて生活せよ。出來得るなら其れ以下にて生活せよ。虚榮或は快樂の爲に借る勿れ。虚榮の終りは耻辱、快樂の終りは悔恨なるべし。……負債を只不便に過ぎざるものと思ふ勿れ。汝其が災禍なるを知るに至らん。……汝の有てる物の幾何なるに拘はらず、其れ以下を費せ。」(明日の人に對する今日の使命)時としては俸給が少いから負債をすと言譯する人がありますが、斯う云ふ事を云ふ人は、通例自分が思ふて居るよりも遙かに弱いとを

告白して居るのであります。其は心意上の弱點、即ち適當に計畫する事が出来ぬのかも判りませぬ。(路一四ノ二八―三〇を比較せよ。)或は道徳上の弱點、即ち貪婪の慾を制する事が出来ぬのかも判りませぬ。(提前三ノ三、提後三ノ二)或は宗教上の弱點、即ち一切を棄て、主に従ふとが出来ぬのかも判りませぬ。(路五ノ二)自分の収入が不充分であると思ふ説教者が、増給を請求するのは適當であります。若し其れ以上得るとの出來ない場合には、病氣又は其他の災難があつて、止むを得ぬ時の外は、負債を重ねるとはよくありません。ハーヴェイ博士の言の如くに負債は、屢説教者の生涯の重荷となり、其働の大なる妨げとなるとがあります。金を返へしてない債主の多く居る會衆に向つて、講壇に立つ人は、誰にても全く獨立なる者ではありませぬ。(英文牧師一五四頁)實際人が多く得れば得る程多く得たいと思ひ、(傳五ノ一〇)又益々負債すると云ふやうな事

が度々あります。此は實に言譯けの出来ぬとてあります。説教者は、エス、キリストの善き兵卒の如く、(提後二ノ三、四其給金を以て満足し、(路三ノ一四、之を腓四ノ十一、提前六ノ八、九來一三ノ五と比較せよ)金銭を愛する者となつてはなりません。(提前六ノ一〇、十一、ペテロとパウロが今日説教の爲に與へらるゝ善き報酬と呼ばれるゝものを得たいと云ふ慾望に就て、如何に考へて居つたかを注意せよ。ペテロは利を貪る爲、(彼前五ノ二)と云ふて、パウロが利を貪らず、(多一ノ七)又汚利を得ん爲、(多一ノ十一)と云ふて居ると、同じやうに之を賤めて居ります。)一定の俸給を貰ふて働いて居る説教者にして、其聴衆の中に自分と同じ位な家族を有ち、自分が受けるよりも少い収入で生活して居る人の無いとは恐くありません。教會は其牧師に其最も貧しき會員の収入で満足するとを願ふ可き筈はありませんが、然し牧師自らは其が負債に陥らざる唯一の途であるなら

ば、喜んで斯く爲さなければなりません。(哥前四ノ八一―一三を比較せよ。)説教者は「敬ふに足る衣服」を着なければ、其感化を失ふてあらうと度々思はれます。此語の意味から考へますと、此は大なる誤であります。(雅二ノ二ノ五を比較せよ。)「金縁の眼鏡、フロックコート、金時計及び金鎖」が説教者を作りませぬ。説教者は他の事に於ける如く、其衣物に於ても、奇麗にさつぱりして居らなければなりません。又衣物は出来るならば「敬ふに足る」如きものでなければなりません。然しながら我等を其赤貧によつて富める者と爲す爲に、富める者なりしかども、貧しき者となり給ふた主の爲に、我等が着る安い古衣は、(哥後八ノ九)王の家に住む人々の柔かなる衣物に由て得らるゝよりは、遙かに大なる事を成就する事を記憶しなければなりません。(路八ノ二五之を太三ノ四と比較せよ。)衣物の費用が説教者に過分である時には、或る種類の人を引着けるかも知れません。

せぬが、或る種類の人を去らしめます。(箴二八ノ十一を比較せよ。)美はしき衣物は正當の場合でも、兄弟等の嫉を起させるとがあります。(創三七ノ三、四を比較せよ。)而して神の嘉みし給はざる方法によつて得た時には、呪となるとがあります。アカンは望んで居つた美はしいバビロンの衣を得ましたが、然し又其結果として永久に石を以て掩はるゝに至りました。(書七ノ二一、二六)ゲハジは願ふた二襲ふたかさねの衣を得ましたが、然し之に加へて、彼の變へる事の出来ぬ又彼の子孫の恐ろしき相傳動産となつた癩病の白衣をも受けました。(王下五ノ二二、二七)パウロの行爲と對照せよ。(徒二〇ノ三三)ずつと前に博士アダム、クラークは左の賢い諫告を説教者に與へました。

『食物、衣物、或は其他何の爲であつても決して負債してはなりません。飢餓の爲、或は寒氣の爲に溝で死ぬとは罪でないが、拂ふ見込が充分にない

のに負債するとは罪であります。最も確かなる正しき方法は、拂をするまでは、決して食物を食はず、衣物を着ぬとであります。之によつて諸君は負債に陥るとなく、又諸君の有する僅かなる金を最もよく使用すると出来ます。掛かかて暮す勿れ、何んとなれば其は二倍を拂ふ方法なればなり。』と云ふ古の諺は眞であります。(Letter to a Preacher, in Detached Pieces, Vol. III, p.p. 177, 178)時々説教者は何かに寄附しようと思ふて負債するとありますが、非常なる誤であります。人が自分のでなくして他の人に屬して居る金を神に捧げますならば神は之を喜び給ひませぬ。(可七ノ九—一二)神の祝福によりて思慮を與へられた善き人々は、矢張斯る捧物を喜びませぬ。チャニングは人が負債をして拂はぬ場合には、最も大切な慈善の爲であつても、金を出してはならぬと申しました。此のチャニング一人丈けてはありませぬ。(基督教説教史三六二)デバがメヒボ

セテの物を與へて氣に入らうとしたとは容易いとしてありましたが然し悪いとてありました。(母後一六ノ一―四、一九ノ二四―三〇)「慈善家たる前に先づ義しくあれ」。

2. 勘定に不注意なる事 時として説教者は自分の金でない金を預るとがあります。大切な意味に於て、此は彼が取扱ふ凡の金に就ても其通りであります。何んとなれば米國社會學會長博士ジョシユア、ストロングは文字の下に線を引いて次の如く云ふて居ります。「イエスは神の爲に、其資産を悉く絶對的に渡すと、凡の信者に要求し給ひます。故に以後凡の地に屬ける所有物は、其所有者の財産とせられずして、只彼の所有物、即ち彼の御旨に従ふて管理せらるべき委託物とせられなければなりません。」『聖書の學生及び教師』の中の『基督教教訓及び富の使用』然し今申し上げるとは、説教者が教會、或は教會内の信者の一團の爲に

會計の仕事をするとしてあります。此地位は何時も不幸な地位であります。パウロが母教會の貧しき聖徒を救ふ爲に、異邦の信者が寄附した金を、エルサレムに携へ上つた時に、自ら其金を預らずして、殆んど同時に上京した各地よりの使者に之を托しました。(哥前一六ノ一四、徒二〇ノ四、六、二一ノ二九を哥後八ノ一九―二一と比較せよ)。基督教歴史の極く初に、使徒等は飲食の事に事ふる爲、自分等は召されたのでない事を知りました。(徒六ノ一―四)然し金が説教者に預けられる時には、最も小さいまでよく注意して、其が預けられた目的を達するように之を保管し、又場合によつては之を使用しなければなりません。又収入を精確に記載した帳簿を誰でも見るとが出来るようになし、自分勝手に少しでも之を使用してはなりません。牧師が勘定に不注意であつた爲、又は信者の金を正當に使はなかつた爲に、其説教に於て、信者の信用を全く失ふた場合は實

に多くあります。牧師が會計でない時でも、教會に代つて書籍、オルガン、或は其他の道具を買ふとを依頼されることもあり、又は教會が敬意を表せんとする人の爲、或は同情を表せんとを希望する人の爲に、贈物を買ふとを依頼されることもあります。斯る場合には綿密、明瞭、又精確なる勘定をしなければなりません。而して最も几帳面な人をも満足さすやうな方法でしなければなりません。

説教者の旅費、或は移轉費が、教會、部會、或は他の宗教的團體に由つて支拂はれる時に、若し一定の金額が其目的の爲に與へられぬ場合には、説教者は浪費を避けなければなりません。又必しも其中に含まれてないものを勘定の中に入れてはなりません。而して其金が自分の有である場合に注意するよりも猶一層注意して使用しなければなりません。時として説教者は、正當であるが、然し甚だ其名聲を傷けるやうな費用の勘定書

を出すことがあります。又家賃を貰ふ約束がある時に、若し家の選定を自分に委ねられる場合には、神の前に己を凡の人の良心に質すやうな相當の家を選ばなければなりません。(哥後四ノ一、二) それで説教者は、金袋を有つて居つた使徒(約一二ノ六、一三ノ二九)の悲しき運命を覚えて、決して之を有つとを願ふてはなりません。若し會計の務をするのが彼の義務でありますならば、最も小さい事にても忠信であるやうに注意し、而して「爾曹若し不義の財に忠ならずば誰か眞の財を爾等に託せんや、爾曹もし人の所有に不義ならば誰か爾曹の所有を爾曹に與へんや」。(路一六ノ一〇—一二)との主の嚴かなる御語を覚えなければなりません。

3. 説教者の職を金を得る手段とする事 凡の敬虔なる説教者は、此世の財産を増す爲に、教役の職に召されたのでない事を知つて居ります。

(哥前四ノ一、二、腓三ノ七—一〇、提後一ノ九—一四、此他太一〇ノ九を比較せよ。)然し凡の敬虔なる説教者が例令附帶所得からであつても斯くの如く財産を増すとは危険であるを知つて居りませぬ。働人<sup>はたらきびと</sup>として、自給傳道の爲に金を獲る手段として、其事務の才能、或は熟練を用ゆるとと、(徒二〇ノ三四)説教するとを神を喜ばすとと、財<sup>たから</sup>を獲るととの二つの目的の爲に用ゆるととは、全然別の事でありませぬ。(提前六ノ五を太六ノ二四と比較せよ)或る説教者が多くの俸給を得るとは悪いとてはありませぬ。又或る説教者が將來の必要の爲に、少しづつ貯蓄して置くとは悪いとてはありませぬ。(箴六ノ六、八、三〇ノ二五、創四一ノ三三—三六を比較せよ)此は誰がしても善い事でありませぬ。説教者は他の人の如く、教育とか、自分の家を買ふとか、生命保険とか、銀行に金を預けるとか、何とかして自分の小供の爲に貯へなければなりませぬ。(哥後一二ノ一四)此れまでに富

める説教者がありませぬ。して富める説教者は度々説教の富を有つて居らなかつたとを告白しなければなりませぬが、確かに斯る説教者は今後何時の時代にも起りませぬ。ヨハネはペテロと較べるならば有福であつたと思はれます。何んとなればヨハネには自分の家があり、(約一九ノ二七)其母には身代があり、(路八ノ三、之を太二八ノ五五、五六と比較せよ)其父には雇はれた僕等があり、(可一ノ二〇)而してペテロとヨハネとが神殿の美門<sup>うつくし</sup>に於て跛者を見ました時に、ペテロは不意に複數を單數に變へて、金銀は我になしと申したからであります。(徒三ノ四—六)敬虔なる富める教役者は、其貧しき兄弟等の如くに、金を貪る心を有つて居りませぬ。時としては猶一層廉潔であります。今申し上げましたパウロの命令、即ち子供の爲に貯へよとの語は、最も劇しい犠牲を含むかも知れませぬ。子供等の爲に貯蓄すると云ふ口述の下に、金を獲んと勉めるとは、只責む



べき貪慾のみを含むかも知れませぬ。(詩一七ノ一四、太六ノ一九、二一)人が金銭に關する主の誠を守らなければならぬと云ふのは、其有たぬ所のものによるのでなく、其有つ所のものによるのであります。(哥後八ノ一二)献身せる説教者は金を獲んとする精神、或は時間、或は精力を有つて居りませぬ。鳩、牡牛、或は羊を賣るとは、或る人の爲、又或る場所に於ては有用にして正當なる仕事であります。此他多くの仕事もさうであります。(太二五ノ一四—三〇、路一九ノ一二—二六等を比較せよ)然し此等の事と關係を有つてはならぬ聖所と聖職とがあります。(太廿一ノ一二、一三、約二ノ一四—一六)祭司等が其支給の爲に制定されたる途を通して來るべき金よりも猶多くの金を何時も受ける時は、主の家が文字通りでなくとも、靈的に、必要なる修繕をされずに、打棄て、置かれます。(王下一二ノ四—九を比較せよ)善き説教者は凡の行動を、事務的に致しますが而し職業

として事務を取扱ふとは致しませぬ。

以上の事を充分承知して居る多くの人が、猶財たからの惑まどはしに由つて欺かれます。(太一三ノ二二)彼等は富める者が其教會に來るとを喜び、意識的或は無意識的に、貧しき者に示すよりも多くの注意を其人々に示します。貧者に對する福音の宣傳は、基督教の證據なるを信ずるは、其人々に取つては困難であります。(路七ノ一九—二二)又イエスが富める宰つかさを歸へらせ給ふた時に、爲し給ひし如く爲すとは、其人々に取つては更らに困難であります。(路一八ノ一八—二三之を路一ノ五三、六ノ二四と比較せよ)説教者が其聽衆の中に金の指環をはめ、美はしき衣を着て居る人が居るのを見て、特に其人を優待するやうに試みられる時、自分の衣物を善くしますならば、甚だ意味のあるのであります(雅二ノ二、三)

又牧師が轉任しようとして考へて居る時、其理由は全く之に由つて、肉體上の

利益を得たいと云ふ希望であることがあります。説教者は小教會を去つて、大教會に轉じ、以前よりは多くの給料を得ても差支へのないことが度々あります。然し常に忘れてはならぬ事は、斯く爲さんとの誘惑が、救主からでなく、サタンの招きから來るともあると云ふとであります。何んとなれば若し注意して居らぬならば、轉任の理由は全く金銭上の問題であるのに自分の義務であると思ふとがあるからであります。バンヤンが好錢者君の語として記して居る議論は、ベッドフォードの此大なる夢みし者の時代以前又以後教役者を欺いたものと變はりませぬ。之を聽いて如何に尤もらしく見えるかを注意なさい。

「假りに一人の有力なる牧師ありと想ひ見られよ。此人其の受くる所の給料最と些少なるも、實は其目前に遙かに利益多く亦裕かならん方あるを望み、今や又其望みを達すべき一つの便宜を得、但し其の爲には一層働

き振りを表はし、説教の度数をも増して益ます熱心にし、猶ほ亦其の信者等の機嫌を量りて、自らの主義とする所をも随分枉げて變ゆべしとせんに我が考にては若し其の道さへ開くるとならば、其の人之を爲したればとて、又其の外にも猶ほ澤山に爲したればとて、決して不正直なる人にはあらず。さて其の仔細と云ふは、第一、其の人の利益の多き方を望むは不法に非ず。抑も其の人の目前に其の事の出て來るは、全く神の攝理に依るとなれば、之を兎や角と云ひ争ふ筈なからん。されば得らるべくは其の人直ちに之を取り、其良心の事などはたえて問ふにも及ぶまじ。第二、且つ亦、其の利益を慕ひ望むに依りて、其の人益ます勉強し、また益ます熱心なる説教者となりなどせば、従がつて其の人は益ます好き人物となるとなり。げに益ます其の人の才能を能く伸ばさする次第にて、其れこそ神の聖意に従がへるとなれ。

第三、さて亦、其の信者等の機嫌を取る爲には、自身の主義とする所をも變ゆると云ふことに就きては、是れ亦道理のあることにて、(一)其の人の氣質穩やかにして能く人の爲に己を捨つること、(二)其仕打ちの優しくも亦愛嬌あること、(三)従がつて布教の職には益ます相應はしきことなどを表はすなり。

第四、以上の次第によりて考がふるに利益の少なき方より多き方に移ることを爲したればとて、直ちに其牧師を貪慾なりとは定むべからず。寧ろ其れが爲に益ます出精し、又其の才能をも伸ばしたるにより、之れよく其の職分を盡し、且つは其手に供へられたる好機會を用ゐて善事を爲す者なりと云ふべき筈なり。(池氏譯天路歷程二二九—二三一)

パンヤンの記す所によれば、好錢者君の議論は其仲間なる守財者君、吝嗇者君、利己主義君、擱取君(儲好に居る學校教師)には、答辯の出來ぬものと思

はれましたから、クリスチアンと有望者も必ず答へることが出來ぬに違ひないと信じて、之を此兩人に尋ねるとに定めました。然しパンヤンの話によれば、『其時クリスチアンの云へるやう、およそ幼兒にても眞に宗教の道を信ずる者には、斯かる問の百や千やを答へんと何の造作もなきとなり。既に書にもある如く、パンの爲に基督に従ふことさへ不法ならば、況してや基督と其の宗教とを託たくに使ひて、獨り浮世の幸福を占せ有めんとする者の不埒は如何ばかりぞや、げにや斯かる事を云ふ者こそ、多くは異端者、僞善者、惡魔、また大魔法使の類ひにてはあるなれ。』(池氏譯天路歷程二三四)

ストーカー博士は、其演説の中に、説教者が以前よりは多額の俸給を得る爲に一層有益なる働が出來ぬやうに爲り、己がよりよき自我セルフを萎縮せしめ、己が自然の能力を失ふ危険を論じて居ります。

「多分現今教會の最も必要な働は、勞働者の階級を基督に導き之を失はざるとでありませう。私は教役者が此階級の中に働きたいと熱心に希望するを願ふ者であります。斯る聴衆を治むるを學び、之に自然の自由と勢力とを以て語り得る人は、此自然の自由と勢力とを奪はれ、其齒を抜かれ、其瓜を切られるやうな位置に誘はれぬように注意しなければなりません。」(説教者と其典型一四五頁)

殊に金錢を渴望する此時代に於て、説教者は主イエスが赤貧の生涯を送り給ひしとを忘れてはなりません。其主の弟子として、又其傳道者たるべく召されしとに由つて名譽を得たる者として、其主の如くあるを以て満足しなければなりません。(太一〇ノ二四、二五)若し青年が傳道する爲に、他の職業を爲して得るとが出来ると思ふよりも、少額の俸給を受けるとを満足しませぬならば、其人は此聖職の後補者として適當なる者で

はありません。若し彼が基督の苦しみに與ることを知りたいた願ふのイなければ、(腓三ノ一〇)説教者たるべき資格のないものであります。若し願ふならば、喜んで主の如き赤貧の生涯を送りませう。説教者と金錢との問題は、最も注意深き研究を要する問題でありまして、此に付て定める所の決断は、説教者の献身の度を示すものとして特別意味のあるものがあります。既に述べた事を再び繰返へす恐れがありますが、左に記すアンドリュイ、ムレの語は説教者たらんとを希望する凡ての人の注意すべきものであります。

「我々は基督が何を其弟子等に教へ給ひしかを研究しやうと思ひます。彼が「我に従へ」「我に従へ我爾等を人を漁る者とせん」と云ひ給ふた時に、彼と共に貧しき家なき生涯を送らしめん爲、又彼が神の保護と人の親切とに全く依頼し給ふた如く爲さしめん爲でありました。彼は一度ならず

一切を棄てる、一切を失ふとに付て強い言葉を用ひました。而して弟子等が彼の召を斯く了解したと云ふとは、其綱や税關を棄てたとから見ても、又「我等一切を棄て、爾に従へり」と云ふペテロの語から考へても明かでありませぬ。……パウロは「貧しけれども多くの人を富まし、何も有たざれども凡の物を有てり。」と記して自分の事を云ふて居りますが、主の御生涯も斯くあつたに違ひありませぬ。而して彼の書簡に於けるが如く、彼の驚くべき生涯に於ても、彼は見えざる富が與へ得る無限の満足を自ら經驗し、永遠の事に關する證しに非常なる重きを置いて居るとを證明して居ります。基督に於けるが如くパウロに於ても、赤貧は凡てを焼き盡す熱心より起る自然の結果であつて、彼を通して見えざる能力が充分に且自由に流れ出るとを得たのも、之が爲でありました。(金錢七三、七五頁)

敬虔なる説教者は神に依頼すべき事を斷えず信者に勧めます。彼は先づ神の國と其義きとを求むる者は、衣食に欠くるとはない、何故ならば鳥を養ひ、百合花を育て給ふ神は、其子供等を忘れ給ふとはないと確信を有つて信者に教へます。(太六ノ二八―三三)此は第一眞理の一つにして、明かに示されなければならぬものであります。此は第一眞理の一つでありませぬ。實行の最も困難なものではありませぬ。説教者の場合に於ても、又聽衆の場合に於てもさうであります。シエイクスピアは、「己が教訓に従ふ者は善き牧師である。余は余自らの教を實行する廿人の一人となるよりは、何を行へば善いかと云ふとを廿人に教ゆる方が容易である」と云ふて居ります。(ヴェニス商人 *A. I. Sc. 2*) 然し説教者は山上の垂訓は己が爲なるとを特に感じなければなりませぬ。(太五ノ一) それから又ツロの貿易は主に献げられたる物として聖別せらるべしと云

ムイザヤの預言の如き語は、(賽二三ノ一八)飽きくらふ料となり華美なるころもの料となるために、神が特に聖き物に奉仕する人々に、之を與へ給ふと云ふ意味を含んで居るやうに見えます。若し説教者が神の家に於て、カナン人とならぬように注意しますならば、神は彼に食物を與へ、エルサレム及びユダの鍋は凡て萬軍の主の聖物となり凡て犠牲を獻ぐる者は來りて之を取り其中にて祭肉を煮んと云ふゼカリヤの預言して居る時が早く來るやうになし給ひませう。(亞一四ノ廿一)パウロと共に「我なんぢらを累はせざらんとすそは我爾曹の所有物を求めず、唯爾曹を求むればなり。」(哥後一二ノ一四)と云ひ得る者は、神を敬ひて足るとを知ると(提前六ノ六)より來る其利益を以て富める者となるのみならず、又已を受くる爲に開かれたる多くの心と家との富を以ても富めるものとなります。此は主に従ふ爲に棄てたもの、百倍に價するものであります。(可

一〇ノ二九、三〇)然し此と反對の場合には實に悲しむべき場合であります。預言者ミカが主の御靈によりて能力身に滿ち公義及び勇氣衷に滿ちてヤコブにその愆を示し、イスラエルに其罪を示した時に、彼は來らんとする其聖き都の滅亡は、墮落の爲であると申しました。即ち彼は、その祭司等は値錢を取りて教を爲しその預言者等は銀子を取りて占トを爲しエホバに倚頼みて云ふエホバ我等と偕に在すにあらざや。(米三ノ十一、十二)と申しました。

云ふまでもないことであるが、金錢は賤しむ可きものではありませぬ。之を適當に聖別する時には、云ふべからざる善を爲す力となるとがあらますが、(哥後九ノ六一—一四)然し之を重んじ過ぎてはなりませぬ。其は決して靈的力と競争するとは出來ませぬ。ペテロは銀或は金を有つて居らなかつた時に跪者を愈して(徒三ノ六一—八)僅一年間にソロモンが得た金

の重量が、六百六十六タラントであつた時に、又ソロモンがエルサレムにある銀を石の如くならしめた時に、爲し得たよりは、更らに多くの事を致しました。(代下九ノ一三、二七、二〇)パウロ及びバルナバが其働の爲に充たされて居つた聖靈の力は、徒一三ノ二―九、今も猶必要なる力でありまして、シモン、マガスの時代に於ける如く、今日も金銭を以て之を買ふとは出来ませぬ。(徒八ノ一八―二〇)

メソジスト教派の大創始者ジョン、ウエスレイが死んだ時には、後に少しも財産を遺しませぬでした。只別々の場所に二本の銀の匙が置いてあつたのと、彼の著書の版權が遺された丈けてありました。此版權はメソジスト會社へ渡されました。然し彼は神に付ては(路十二ノ廿一)信仰と(雅二ノ五)善き行爲(提前六ノ一八)に於て富める者でありまして、如何程の金額を以ても表はずとの出来ない價值ある遺産を世に遺しました。(彼

前一ノ七を比較せよ)彼は又自らの爲に天に多くの財寶を蓄へました。

(太六ノ二〇、一九ノ廿一)回々教の經典には、人が死ぬ時に後に生き残る人は如何なる財産を遺したかと尋ねるが、天使は死なんとして居る人の上に屈みて、如何なる善行を自分より先に送つたかと尋ねる。」と書いてあります。ウエスレイの模範は、回々教の標準から見ても、又基督教の標準から見ても、之に倣ふべき價值あるものではありませぬか。今までに書かれた中で最も善い英國國民史を著はしたジョン、リッチャード、グリーンはロンドンの東部で説教して居つた人でしたが、赤貧でありましたから、必要な書籍を買ふ爲に度々晝食を廢しました。ウエスレイの如く、彼は貧しき者を助け、苦しめる者を救ふ爲に、自分の金を用ゐました。『各方面の非常なる需要を見て、彼は慈善の爲に其俸給を費しスタンダード、レビウーに寄稿して之を補ひました。度々彼は非常に急いで文章を書きま

した。彼は教職より得る収入に付て「余は三百磅を得たが、此爲に七百磅を拂ふた」と申しました。」(グリーン英國民史特別序文)

故に説教者は彼の最高の献身と適ふやうな給料を得なければなりません。然し如何程多く得ても、又少く得ても、何時も金錢を奴隷となし、決して主としてはならぬとを忘れてはなりません。即ち之を彼の高き聖職の高尙なる目的を達する手段となし、其職を辱しめるやうなものとしてはなりません。

#### 4. 空談の悲しむべき習慣

パンヤンの記す所によれば、クリスチアンは一人の人に付て「彼の者は口輕某の子にて空談通りに住みけり。まことや空談通りの多辯とて、其の名は界限に知れ渡れる者なり。されど其の口先の麗はしきには似も付かず、實は憫然なる者なり。」(池氏譯天路歷程一六八)

我等は教役者の無益なる談話は、稀であると信じますが、然し實際あるとせば、其は説教者の働を非常に害するものでありますから、茲に一言注意して置かなければなりません。説教者は斯る習慣を有りたいと思ひませぬ。彼は此習慣のあるとを全く知らずに居るかも知りませぬ。彼はある談話力を有つて居るとを知つて居る丈けて、喜んで之を用ひ、又友を樂しましめる爲に之を用ひることを誇りとして居るに過ぎませぬ。然し若し彼が話すなら、何事かに付て話さなければなりません。通例談話の材料となるものは天氣の事や新聞紙上の事でありまして、此等に付て云ひ度いと思ふとは直ぐ云ひ盡して仕舞ひます。斷えず彼の容易なる談話を以て樂まされて居る友人の小團體は、古のアテンス人の如く、何時も何事か新しきとを聴きたいと願ふて居ります。(徒一七ノ廿一)彼は其人々が知らぬ事を知つて居ります。其信者の中の多くの人々が、靈的諫告



者として、自分或は家族の生活の多くの事實を彼に告げました。説教者は此等は其友人の一人或は一人以上の者に甚だ面白いとてあらうと思ふかも分りませぬ。故に其人達を喜ばす爲に、或は多分肉の弱き爲に自らを喜ばす爲に、已が秘密の室を開いて、已が寶物の庫と武器庫を悉く彼等に示し、斯くして愚かにも其庫にある物を示して、災害を招いたヒゼキヤ王の如く致します。(王下二〇ノ一三一―一八)

斯る行爲の有害なるとは明白であります。第一、牧師の其信者の家族中の秘密なる宗教的状态を顯はすやうに誘導し、而して往いて之を人々に語るべき権利なき者であります。此は聖なる信任を破るとであります。多くの牧師は斯くして其感化を害し、而して信者の信任を失ひました。若し彼が信者の諫告者として又友人として信頼されるとを望みますならば、訪問の時自分に托せられたる委託物

に眞實でなければなりません。(エフ、エツチ、ハーザエイ著牧師八五頁) 凡ての説教者の心は、昔約束の地が、ユダヤ人に暗示した事を、其信者に暗示しなければなりません。即ち喩へば、其中には橄欖園や葡萄園があつて、(書二四ノ一三)断えず爽快ならしめる而已ならず、嘗て崇拜せし友の如くであつた事實或は想像の死骸を葬り得るマクペラの洞穴(創二三ノ四―十一)もなければなりません。此園の中は眞に「神の地」にして、其中に横はる凡てのものは眠より醒むる其大なる日まで、安らかに休まして置かなければなりません。此灰を掻混ぜても利益を得る者は一人もありません。エンドルの女巫が墓よりサムエルを呼出した時に、(母前二八ノ十一―二〇)自分にも又サムエルにも喜とならず、既に恐れて居つたソウロ王の恐れを一層甚しくしたるに過ぎませぬ。説教者は委託物の中で大切なものと、大切でないものとを區別し得ると思ふてはなりません。

如何なる事でも人が信頼して語つた事は、之を破つてはなりません。小包が最も堅固にして安全なる銀行の窖あなごに入れられ、火にも焼かれず、盗賊にも取られぬように置かれます時には、假令其小包の價値が記してなくとも安全である如くに、説教者は之を守らなければなりません。第二に無益なる談話は、牧會の妨げとなり、訪問を爲す機會を悉く失はしめるものであります。

何故に無益なる談話を止めて、提前五ノ一三詩篇作者の如く、神の義詩七一ノ二四神の驚くべき行爲詩一一九ノ二七或は神の其他の御業詩七七ノ十二を語り、又は神の御國及び其御力詩一四五ノ十一を語らぬのでありますか。何故にソロモンの如く惑へる人の心より疑を取り去り王上一〇ノ三其代りに讚美の歌を入れぬのでありますか。王上一〇ノ九又は何故に自然の書を開いて、喜べる聴衆に、木、獸、鳥、魚等に付て語らぬので

ありますか。王上四ノ三三、三四何故にソロモンより大なる者の如く、太十二ノ四二失望せる人々に聖書を開き、而して之を聽いて學ぶ時に、其心中に燃えるやうに話さぬのでありますか。路二四ノ廿一、二七、三二又は若し此等の事を模倣まねするとが困難であるならば、何故に主にありて教會を治むる人々の如く、撒前五ノ十二少くとも、妄りなる者を戒め、氣の餒うゑたる者を慰め、弱き者を扶け、撒前五ノ一四死者の爲に悲む者を、未來の榮光に付て語る所の言葉にて慰めぬのでありますか。撒前四ノ一三、一八説教者が訪問の時に志すべき最少の事は、ある靈的賜物を與へるとてあります。羅一ノ一一

第三に、虚しき言ことば、太十二ノ三六告げ口つげぐち、利一九ノ一六秘かに告げる事箴一六ノ二八、一七ノ九友を賣る事申二七ノ二四を箴一八ノ八、二五ノ一八詩四一ノ九と比較せよ、人を誘ふ事多三ノ二、弗四ノ三一、雅四ノ十一、彼前二

ノ一神が責任を負はしめ給ふた人の事を妄りに論ずる事(約參ノ一〇)即ち此等の事及び早晚斯る雑談の上に確かに現はれ来る他の惡しき事は、神の語の教訓とは全く矛盾せるものであります。而して神の語を宣べ傳ふるは、説教者の義務であり、又光榮であります。

「無益なる談話は、何時も惡意或は柔弱を自ら表白するものであつて、青年は常に之を避けなければならぬ而已ならず、極力之に陥いる凡ての誘惑より自らを救はなければなりません。其は卑しい、價値なき、又屢々不潔なる仕事であります。田舎の或る所では、其れがベストの如く盛んに害毒を流すことがあります。教會は之に由つて分裂し、隣人は之に由つて生涯敵となることがあります。多くの人には、之は實際不治の慢性病となります。青年は直すとの出来る間に之を直さなければなりません。(ジェー、ジ、ホルランド)」

無益なる談話は、之に關係ある凡ての人を害します。其れは恥づべき事を云ふように語る人を導くから、又多分隣人の性格及び生活を批評して樂みとする人々には眞理は充分刺激を與へるものでない故(ジョージ、バシクロフト)話を大きくして知らず、偽を云ふようになり、語者から、語る者を害します。其れは話相手をして、健全なる教をもつて満足せず、耳を眞理より背け、奇談に向はしめますから、話相手を害します。(提後四ノ三、四)其れは速かに廣まり、非常に大きくなる風説を作りますから、話題に上つて居る人を害します。「慘酷なる話は車にて走り、其走る時に凡ての人は其車に油を注ぐ。」(Louise de la Ramée, in Wisdom, Wit and Pathos)其時語られる熱い一つの語は火災を起し、雪球から飛ぶ一つの冷い語は、大きくなつて頬雪となり、其れは社會を害します。「諸君の死につゝある身體の幾分かは……諸君の呼吸にて空中に浮びます……而して

神は斯る有毒物を吸収する爲に、此世界に植物の生命を充し給ひました。而して諸君の口より出づる空談と誹謗とは、人間の外之を吸収するものはありませぬ。花は之を吸収する途を有つて居りませぬ。其香の爲に幸なるとてあります。同著者は「空談と誹謗を確實に愈すには、鼻より呼吸して、口を塞いで居るとである」と申して居ります。(バブコック日常生活の爲の思想五二頁若し説教者が此惡習慣のあるとに氣が付くならば、少くとも彼に取つては、彼の話の銀は、恐く賈造物であつて、彼の沈黙が金である)と云ふとを確かに認め、而して其口に門守をおき、其唇の戸を守るよう、神に切ら祈らなければなりません。(詩一四一ノ三)

5. 不平を云ふ習慣 或る説教者はパウロの如く如何なる様に居るも満足して居るとを經驗しました。香氣馥郁たる花の如く、彼等は境遇の如何に拘はらず其香氣を空中に放ちます。然しながら時としては之

と反對の説教者もあります。何物も全く正しいものはありませぬ。如何なる事を其人の爲にしても、満足しませぬ。太陽が如何程輝いて居つても、彼は蔭影を見て居ります。此れ他の人々よりも多く苦しみを受けながらではありませぬ。或は他の人々程苦しまなかつたかも知りませぬ。ジスラエリは「苦痛を知る人は、悲しく見るとは滅多にならぬ」。(Endymion, Chap. IV.)と云ふて居ります。悲しき状態は身體の病氣から來るともあるし、或は心的構造の遺傳の爲であるともあるし、又道徳性から來るともあります。其原因は何れにしても、福音の役者に取つては言譯の立たないとてあります。今引用した著者は「直ぐ心を痛めるとは、病氣であるか、或は利己主義であるかであります。……身體の爲から起らぬ短氣もあります。其の道徳から起るのであります。……即ち不道徳からであります。……何れにしても自分の思ふ様にしたいと望みます。……」

我等は過敏なる感覺を注意しなければなりません。身體の爲にも、又靈魂の爲にも危険であります。(バブコック日常生活の爲の思想、八〇頁) 不平の必しも過敏なる感覺に伴ふものではありませぬ。此感覺に付ては後に論じますが、然し此感覺があつても、又無くても、不平を云はずに何事をもしなければなりません。(腓二ノ一四) 説教者は善き性質を有つよう  
に勉めなければなりません。(弗四ノ三一、三二) ヘンリー、ワイド、ピーチャ  
ーが云ふ如く、單に幸福と云ふと丈けを考へれば此善き性質は、知識よりも金銭よりも、名譽よりも、之を有つ人と其人と共に住む凡ての人には價  
値あるものであります。(ブリマス講壇よりの格言)

多くの人はイエスに眩きました。例令ば學者とバリサイ人は、イエスと彼の弟子が、税吏及び罪人と共に飲食しましたから眩きました。(路五ノ三〇、一五ノ二、一九ノ七) エダヤ人はイエスが天より降りしパンなりと云

ひ給ふた時に、眩きました。(約六ノ四一—四三) 弟子等は此と同じ時に、イエスの語を「甚しき言葉」と思ふて眩きました。(約六ノ六〇、六一) 然し彼は話<sup>の</sup>られて語り給ひませぬてした。(彼前二ノ二三) 而して同じやうな境遇にある説教者は、只祝する丈けてあつて、(哥前四ノ一二) 決して話を以て話に報いてはなりません。(彼前三ノ九) アルフォードは、パウロは腓二ノ一四の名詞を、ギリシヤ方言のユダヤ人が、ヘブル方言のユダヤ人に向ひて眩いた時(徒六—一)の如く、或は舊約時代に於ける人民が、モーセに向ひて眩き、アロンが神に向ひて眩いた時(民一四ノ二、二八、二九、一六ノ四一、四四—四八)の如く、人に向つて眩くとにのみ使用して居ると考へます。其れはさうとして、ユダ書の眩く者、不平を鳴らす者は、(猶一六) 其近世の代表者の如く、己が知らざりし事を眩いたやうに見えます。(猶一〇) 而して近世の代表者の、己が知ると思ふ事をも眩きます。例令ば此種類の説教者は

己が俸給は不充分、己が家庭は不愉快、己が教會は不便、己が隣人は煩はしく、己が務は面倒であると思ひ、又天氣も滅多に満足に思ふたとはなく、人を接待するにも眩かぬとはありませぬ。(彼前四ノ九)

前に申しました通り、眩く傾向は確かに或る種類の病氣に由つて、更らに一層悪しくなります。然し若し説教者にして説教者の名に恥ぢざる者でありますならば、ヨブ記を研究して、彼の宗教は彼の病と匹敵して猶優れるものなるを誇らなければなりません。一生涯病の爲に苦しみ、恐くは彼よりも遙かに深い苦痛を感じながら、何時も輝いて楽しくあつた人もあります。彼は同じやうにあるべく決心しなければなりません。異教の哲學者でも、此點に付ては大に勉めて居ります。「エピキュラスの云ふには、自分の病氣の時には、自分の身體からだの苦痛に付て談話しなかつた。又訪ねて呉れた人と斯る問題に付て語らなかつた。私は前の通り事物

の性質に付て談話を繼續し、此要點を離れぬようにして、人の心は、此憐れなる肉に於て進行するが如き斯る運動に干與せるも、如何に混亂より免れ、而して其適當なる善を維持するに至るかと云ふとを話しました。(マカス、オレリアスの引用したる語)

時としては説教者が恐ろしき失望に遭遇して其の爲に生涯其影響を受けたともあります。若し彼が斯くの如き懲めに由つて適當に訓練されるならば、之に由つて柔和なる心と同情の心を得、平和の果を結ぶとがあります。(來十二ノ十一)之に由つて彼は少くとも嚴しき怒り易き者となつてはなりません。説教者は猶はなは又は豪猪やまごの如き者となつてはなりません。若し聴衆を基督に獲たいと思ふならば、栗の毬いを見せず、自分の遭遇した霜困難かの爲に破れた毬いから出た好味ある果みを示さなければなりません。此れ迄に經驗し來つた事を他人に示す必要はありません。

冬が過去つたことを示す春の花を其人々が見れば、それで充分であります。「失望せる人は暴風の信號を擧げなければならぬ義務はありませぬ。苦痛を廣告しなければならぬと云ふ法則はありませぬ。機關車が自分の煙を燃すとが出来る時に、旅行は猶一層愉快でありませう。……失望せる心が愉快なる語を喚起すとは悪しくありませぬ。猫でも室内の日のよくあたる所にのみ横はります。……我々は救主が生活し給ふたやうに生活しなければなりません。彼は其悲みを父と別ち、其生命を此世と別ち給ひました。」(パブロック日常生活の爲の思想三九、一二六、一二七)時として説教者は人より害を受けたと思ふ故に喧きます。斯る場合に先づ自分の心を見なければなりません。ナバールはダビデより害を受けたと思ひましたが、それは馬鹿であつたからさう思ふたに過ぎませぬ。(母前二五ノ三―二五)然し或る人が説教者を害したとすれば、どう致しま

せうか。マールカス、オーレリアスは斯う答へて居ります。即ち、人若し爾に害を爲さば、善或は惡に關する如何なる説を有つて彼が害を爲したるやと直に考へよ。何んとなれば爾若し之を知らば、爾は憐憫の心を催して、驚くともなく怒るともなかるべし。(Why Worry, P. 139) 説教者は又我等を辱しめる者に對して如何に爲すべきかに付てマールカス、オーレリアスよりも大なる者の語を忘れるとは出来ませぬ。(路六ノ二七―二九) 説教者は又「羊が其毛をさる者の前に黙せるが如く」――其時に羊自分の衣は後に其肉を食ひて飽かんとする者の衣を作る爲に、強ひて取らるゝのてあります。――其通り「彼は其口を開き給ひませぬでした。」(賽五三ノ七、徒八ノ三二)若し人が嘲り賤むならばどう致しませうか。其は説教者が主の地上の衣を以て自らを裝ふべき機會であります。彼は喧くともなくしてエリシャが自らの衣を裂いて、エリヤの上衣を取り上げし時に喜び

し如く喜ばなければなりません。(王下二ノ一二、一三)

「凡ての善き行爲を義務で無つたかの如く、如何なる法則も之を命じ無つたかの如く、如何なる恐怖も之を強ひ無つたかの如く、少しの克己をも、少しの努力をも要し無つたかの如く、彼の本性より彼の善と愛との豊かなる富より、樂と喜とを以て飛出せしが如く、自由に喜んで親切に爲す人には、愛らしき點と慈悲の點があります。之に反して、強迫、秘密なる嫌惡及び苦痛、若し強迫されなかつたならば、斯る事を爲さざりしにと、明白に語る所の抑へられたる眩等のある凡ての語、事業及び耐忍は、忌はしく又愛らしくないものであります。(メンケン)

實にイエスの宗教は十字架の宗教であります。彼の弟子たる者は皆十字架を負ふとにのみよりて其資格を得ます。(可八ノ三四等)クレネのシモンは十字架を負はなければならぬようになった時に、多分眩いたてあ

りませう。(太二七ノ三二)然しイエスの眞の弟子は、アレキサンデルとルフトの父なるシモンが眩いたとすれば、之に倣ふとを好みませぬ。(可一五ノ二一)其名に恥ぢざる凡ての説教者はパウロの如く其十字架を誇り、(加六ノ一四)而してパウロの如く常に喜ぶとを困難であるとは思ひませぬ。(撒前五ノ一六)説教者が眩きますならば、人は宗教には喜がないと申しませう、又多分さう感じませう。ヘンリー、ワイド、ピーチャーが説教者に與へた諫告は、茲に適當なものであります。彼は申して居ります。(大に省略したもの)

「私は思ふ。牧師は基督信者たるとは、此世で最も幸福なる者であると云ふ實際的觀念を青年の腦裡に印象しなければならぬ。私は我々は基督教の目的は猶一層高尚なる人間を造り、猶一層善良にして幸福なる生活を送らしむるに在るとを知らしめなければならぬと思ふ。基督教は生



れつきのまゝなる人に由つて諸君が決して上げるとの出来ぬ範圍に上げられたる友誼を現はして居る。其は地上並に天上の最も純潔なる樂しみを表はして居る。其はアロンの杖の如く人生に花咲くことを示して居る。眞の基督信者の輝ける喜に充ちた生活を充分に送る人て、之と比較せば他の生活は、皆低い賤しいものである。眞の牧師の基督教的性格及び基督教的生命の此高尚なる思想を以て、其會衆を感動さす爲に、自ら何物か有たなければならぬ。彼は其靴の中に、又其頭の中に鉛を入れて往くとは出来ぬ。彼は身を粉にして働いて、咄くとは出来ぬ。神の人は其交はる人々に自分は凡の人よりも猶一層男らしき者であることを感ぜしめなければならぬ。(エール大學説教講演第一、一九〇、一九一)

故に凡の説教者、殊に怒り易き説教者は、今茲に述べて居る害惡は、舊約の教會を大に困らせたから、新約の教會の警戒として記さるゝ四つ著しき

ものゝ一つであることを覚え、又彼等の中に咄く者ありて、滅す者に殺されし如く爾曹咄く勿れ。(哥前一〇ノ一〇、一一)と云ふパウロの戒を聽き、而して注意しなければなりませぬ。

丁、家庭の習慣。説教者は家庭に於て、其行に善く注意しなければなりません。其格言の一つは、我は全き心を以て我家の中に歩まん(詩一〇一ノ二)と云ふとてなければなりませぬ。或る説教者は其家族の爲に餘り多くの時間を費しますから、又或る説教者は餘り時間を費しませぬから、孰れも誤りを致します。茲に中庸の道があります。結婚した者は妻の事の爲に心を勞します。(哥前六ノ三三)冷かなる無頓着、或は嚴しい慘酷なる取扱は、夫れ自身に於て、赦す可からざるものなる而已ならず(弗五ノ三三)之を知る人々の同情を惹き、而して之が爲に説教者の價值を減じます。時としては説教者の妻君が、病氣であることがありますが、其時に少

しても之を打棄て、置くとは、特に責む可きとてあります。之と反對に或る人の妻君は、夫の働に反對を爲し、夫が其務を爲さんとする時に、大なる妨げとなります。ジョン、ウエスレイの妻君は、躁暴で半無責任の人、又「夫の手形や金銭を使ふた人、眞實を語ると信ずる事の出来ぬ人であつたと云はれて居ります。或る時、盗まれて書入れされた偽造の手紙を彼の妻が公けにした爲に、誹謗されたとあります。多くの人は此事に付て、非常に憤りました。ウエスレイの兄弟チャールズも怒りました。然しウエスレイは此間平静であつて、其兄弟に向つて、私が自分の安逸、自分の時間及び生命を神に献げた時に、自分の名譽を除外して、献げなかつたか」と申しました。ジョージ、ホイットフィールドも亦結婚の生涯に於ては不幸でありまして、彼にはホームと云ふ可きものが無つたと云ふとてあります。或る人は此は彼の漂泊の精神と、自分の家よりも人の家を、慰藉

を求むる場所とした事に歸因すると思ひます。或は彼が悪くなかつたのかも分りませぬ。(バチソン氏基督教説教史二五八、二五七、二九〇を見よ)

然し夫婦間の關係は、如何に不幸であつても、夫れが爲に家族の争をして、も正當であると云ふとは出来ませぬ。假令其關係が甚だよくないものであつても、説教者は争ふ者であつてはなりません。(提前三ノ三原語では酒を其原因と見るとも出来ませぬ。或る時ソクラテスの妻カンシツペが非常に劇しい語を以て其夫を罵つた後で、上から水を浴せたとがありました。が、彼の或る弟子等は、彼が嚴しき制裁を加へずして、只水を拭き去つて、斯る大雷後に驟雨のあるは當然である。と哲學的に云ふた事を驚きました。) 説教者であつて、喧嘩ずきの妻君或は不適當なる妻君を有つて居る人は、實に氣の毒であります。然し神の恵に由つて、其境遇に打ち

勝ち、自分と其事實とを知つて居る凡の人に、自分は衷なる靈の能力によつて、浮上つて居る事を示す事が出来ず。若し然らずして誘惑に陥り争をしますならば、サタンは喜んで叫び、其説教者は人々の笑物となりませう。

之に反して説教者は妻と子供とを餘り愛し過ぎることがあります。マシユ、ヘンリーは、多くの人は自分の家族と親族との爲に、餘り心を用ひ過ぎるから、眞面目なる信心の道に入るとが出来ぬようになり、又進むとが出来ぬようになる。プロードス英文馬太傳註解一九三頁と云ふて居ります。説教者の妻君は通例勇まじき潔き心を有つて居る献身した立派な婦人でありまして其上に度々教育のあり才能のある者もあります。大抵如何なる説教者であつても其妻君を誇りとしても宜う御坐います。而して多くの説教者は、神が與へ給ふた其内助者が無つたならば、其働の

半分もする事が出来ませぬてしたてせう。夫れ故に説教者は、其妻君の健康、慰藉及び繁榮を貴むは、當然の事であります。彼が自分の務の妨げとならぬ範圍に於て、其伴侶となり、又家事に於ても助力を與ふ可き筈であります。然しながら餘り度を過すとあります。彼には彼の務があり、妻には妻の務があります。各互に同情し、互に或る程度まで助け合はなければなりません。然し各相互の働に干渉せぬように注意しなければなりません。説教者は妻が健康であり壯健であるのに、料理、洗濯、子守等の助をする爲に、其講壇或は其會衆を棄つ可き權利を有つて居りませぬ。(休養の爲に傳道牧會を休むのと全然別の事であります)。

説教者は其子供等を適當に教育しなければなりません。(箴廿二ノ六)説教者は此務を怠らぬかも分りませぬ。或は之を他人に委ねるかも分りませぬ。パウロがテモテに送れる前の書に、監督の資格を記して、其一つ

は「自己の家を善く理め、端莊を以て其子女を服はしむ可き事である」と云ふて居ります。(提前三ノ四)パウロは之に「人若し自己の家を理むることを知らずば如何にして神の教會を管することを得んや」と云ふ語を加へて、更らに之を強めて居ります。(提前三ノ五)パウロは之と同様なる誠をテトの書にも記し、此青年をクレテに留めたのは、缺けたる所を正しくし、長老を立てしむる爲であつて、若し人咎む可き所なく……其子女も放蕩をもて訴へらるゝことなく服はざることなき信者ならば長老に立つ可き者なり」と云ふて居ります。(多一ノ六)此等の數言は、牧職に任ぜらる可き者は、管によく其子女を訓誡したと云ふ丈けてなく、神の祝福によりて、其子女に道德的品性と宗教的信仰とを得せしめた者である事が分ります。昔エホバが其爲さんとし給ふ事を、アブラハムに隠し給はなかつた一つの理由は、彼をして其後の兒孫と家族とに命じエホバの道を守

りて公義と公道を行はしめん爲(創一八ノ一九)であつたと、エホバは語り給ひました。近代の説教者或は牧師は、如何なる階級の人よりもよく、昔のユダヤの祭司に似て居るものであります。然し其祭司の一人なるエリと其家族の上に、恐る可き禍の起つた事は、人の皆よく知る所でありませす。此れエリは其子等の惡を責めたけれども、彼等を抑へなかつたからであります。(母前二ノ十二—三六)説教者は多くの實業家或は他の職業の人よりも、家族と共に多くの時間を費す事が出来ず。勉強をして居る時間にも、遊んで居る自分の子供等の聲を洩聞きするし、又子女等が初めて學校から歸つて來る時に、度々一所に居る事があります。自分の子女が如何なる事を考へて居るか如何なる事を語つて居るか、如何なる事を行ふて居るかと云ふ事を知るのは、兩親の務であります。牧師はどれ程多忙であつても、其子女が悪い事を恣にするのを許す言譯けとはな

りませぬ。彼は各子女の心が、まだ年の若い時分に確に主に與へらるゝように斷えず注意し又祈らなければなりません。説教者の説教も亦自分の子女を感動せしめるやうなものでなければなりません。ドラモン博士教授は左の如く云ふて居ります。

「教役者の子等は信者の子等よりも悪くなると云ふ人の多く信じて居る説は勿論根據の無いものでありますが、然し教役者の子等が父の牧會傳道に少しも信用を置かぬ場合には、其教役が大抵人情的又靈的であるよりも職業的又神學的である事が分ると云ふ事は、恐く確證された事でありませう。道德界及び靈界に於ける結果は我々が辨へて居るよりも猶一層密接に、遺傳の大法に従ふものであります。」(靈界に於ける自然法三五〇頁)

戊、普通の習慣。今我々の捨てなければならぬ最後の習慣に達しま

した。前に記した通り、普通の習慣と云ふ語は、説教者の個人性を全く覆ふて居るもので、何處に居つても、又何をして居つても、斷えず自らを現はすものであります。今其四つ丈けを申し上げませう。即ち悲觀、自欺、怠惰、神經過敏であります。

一、悲觀してはなりません。悲觀者は不平を云ふ者の兄弟であります。然し人が大抵樂天的であつて、不平を云ふことが易いと思ふことがあり、或は何時も悲觀的であつて、大抵眞面目に沈黙を守つて居る事があります。啞く人は物の暗黒面を見ます。悲觀者は暗黒面の他、何物もないと思ひます。或は少くとも日と星は長い間自分の爲に現はれぬと思ひます。(徒二七ノ二十)善い路があるかも知りませぬが、其路には何時も獅子が居ります。(箴二二ノ一三、二六ノ一三)悲觀者に取つては、幸福なる事は困難であります。又啞く者が側に居る時は、誰でも幸福なる事は困難で

あります。呟く者は呟くことを真に愉快と思ふやうに見えます。此二つが一人即ち慰めらるゝ事を拒みて、創三七ノ三五萬事自分に逆ふて居ると云ふた(創四二ノ三六)ヤコブに於て結合されることが出来ます。悲觀主義は勿論又謙遜とも非常に相違したものであります。後者は人をして己を卑く見せしめ、前者は一般に此宇宙を卑く見せしめます。後者が獎勵せらる可きが如くに、前者は獎勵せらる可からざるものであります。此兩者の源因、其顯現及び其結果は異つて居ります。「我等の歩を遅くせしむる精神の沮喪は下より出たもので、神の目的を達する爲に我等を熱心ならしめる謙遜は上より出たものである。決して失望してはならぬ。恰も諸君の生活の必要なる部分であるかの如く、失敗或は不完全と面を合はせて坐つてはならぬ。神は失敗を赦し給ふことが出来るが、然し其の高尙なる探求を捨て、其手を垂れ、其膝を震はして居る人を

赦し給ふことは出来ぬ。若き兵士よ、再び旗を取つて戦はんが爲に突進せよ。過去の失敗を大なる成功の刺激とならしめよ。記憶せよ、基督は何時も前に居り給ふて、其恩恵は充分である。「我恩恵は爾に足れり」との御約束の成就を要求せよ。』(エフ、ピ、マイヤ、氏ビリビ書註解一七六頁) 悲觀主義の反對は勿論樂天主義であります。樂天者も亦獅子を見ることがありますが、然し之を踏むと申します。(詩九一ノ一三)凡ての人は樂天主義でなければならぬと度々勧められ、又此は公けなる指導者に取つては其成功に缺くべからざるものと思はれます。扱て善い事があれば之を見遁さない樂しき性質は、人を指導する人には大なる價值あるものであります。例令ば牧師エフ、ダブルユ、ロバ、ソ、ンは「悪い事柄にも善きこと、の精神がある事と、説教者の目的は之が何んであるかを發見し、之を覆ふて居る誤謬より之を離れしむる事であると主張したと云ふこ

とてあります。此確信が彼の生涯、人に對する彼の評價と人に對する彼の行動、併に彼の世界觀、歴史觀、及自然觀を支配しました。(基督教説教史三一―二頁)其は一つの能力でありました。又歴史家ヒュームは自分は憂鬱なる心を以て、一年に一萬弗の收入ある財産の主人たらんよりは、何時も光明の側を見る傾ある愉快なる性質を有りたいと常に云ふて居つたさうであります。(英文スマイル自助論四〇―八頁)此は彼に大なる益を與へました。然しながら樂天主義を崇めて極端に馳せ、餘り樂天的になり過ぎることがあります。我々は眞實の善を發見せんとする努力と、或は虚假であるかも知れぬ善を主張することとの間に區別を立てなければなりません。樂天主義に二種類あります。第一は基督教的樂天主義にして、道德的惡のあるに拘はらず、萬事働きて益を爲すと斷言するものがあります。第二は汎神論的樂天主義にして、萬事よしと斷言するもので

あります。(A.H. Strong, D.D., in *The Great Poets and their Theology*, P. 434.) 以上の引用文によればロバートソンRobertsonの樂天主義は汎神論的にして、ヒュームのは基督教的であるやうに見えますが、然し斯く如く斷定することはロバートソンRobertsonに對してよくありますまい。教役者の有つべき樂天主義は、茲に基督教的樂天主義と云はるゝもので、只此れ計りが正當のものであると云ふことは言はずとも分つて居ります。

或る説教者は悲觀的であると思はれることを怖れますから、罪を「罪」と呼ばず、其説教の中から只「地獄」と云ふ語を取り去る計りてなく、未來の刑罰に關する事は悉く捨て、仕舞ひます。斯る説教者は病める子供でも砂糖を與へるならば、時として喜ばすことが出来るやうに、或る範圍まで其聽衆を喜ばすことが出来ず、然し其喜は何れの場合に於ても永久てはありませぬ。人は罪を自覺するようになりません。(詩三二ノ三―五)又

斯る罪を罰し給ふ神の義は人間の理性に合ふものであります。(詩五一ノ四)

汎神論的樂天主義と悲觀主義との中間に位するものが一つあります。

此は多くの思想家及び著述家の熟知して居るものであります。ヴァン、ダイク博士は其著書中に之を「改良主義」と云ふて居ります。今只二つの引用丈け致します。

「愉快にして又考深い人、即ち開きたる眼を有てる希望の子が、此世の爲に致しまする最大の主張は、此世は此れ迄よりは善くなつて居ると云ふ事と、更らに之を改良する善き望があると云ふ事であります。此は實際的又可能的改良の哲學なる改良主義でありまして……：：：謹慎深い眞面目なる信仰、即ち蝗いんせうと批評家とが共に重荷となる失望落膽の時に、慰めとなるものであります。」(The Spirit of Christmas, P. 6.)

「誰か人生の眞の哲學は、樂天主義と悲觀主義との間、即ち古風の基督教が之に訴へ、之に約束をした其堅確にして修正されたる改良主義にないと言ふてあらうか。」(The Poetry of Tennyson, P. 293.)

安全なものは唯此であります。何となれば此が唯眞のものであるからであります。此を二つの勢力の結果、即ち反對の方向から来る二つの流れの會合と見ることが出来ます。例令ば此世は益々善くなりつゝあると云ふことが出来るし、又益々悪くなりつゝあると云ふことが出来ます。此世が進むに従ひ、善と惡との道德的發展は、間斷なく繼續するものであります。即ち稗ひらいと麥は一樣に生長して收穫の日に至ります。(太一三ノ三〇)善の進化を視、麥の熟するを視て、説教者は樂天的となり、稗のみを視て、悲觀的となるのは當然でありますが、説教者の爲すべき事は、其兩眼を用ひて、其兩方を見、而して其平均を定めることとあります。アンド



リユール、ムレー博士の左の言は、當を得たものゝ如く思はれます。  
「輝ける望あるものに付て語ることを好む樂天主義があります。斯くして感謝は神に捧げられ、勇氣は神の僕等に與へらるゝと考へます。其は何物よりも悲觀主義を怖れます。然し樂天主義も悲觀主義も等しく避く可き誤謬であります。此等は等しく一方に偏したもので、何れも極端であります。神の知慧は、我は審判の途の真中に歩まん」と教へて居ります。我々が二つの衝突せるが如く見ゆる眞理を取扱ふ時に、只一つの爲すべき事は、其眞の關係を見て、其何れかの一方を、無暗に重んぜぬようにする事である事を、經驗に由つて學びます。其方法は先づ一方をよく見て、其意味を充分に悟り、然る後他の方を見て、又其意味を充分に知ることあります。斯くして兩方が分る時に、我々は眞理の途の「真中」を歩むべき地位に居るのであります。」(The Key to the Missionary Problem, PP. 176, 177.)

我々の理想は中庸の道であるけれども、之に達する爲には、樂天主義の方向に向はなければなりません。此世の多くの事柄の自然的傾向は下の方に向つて居ります。此は道德的にも又物質的にも眞てあります。生命は擧げ、蒸氣は昇る。然し小山を上るよりは下る方が、飛ぶよりは落ちる方が容易いと云ふことは耳新らしいことではありませぬ。渡船の船頭が流を横ぎらんとする時に、上陸地點よりも遙か上の方へ船を行く様に、眞に中庸の道を取らんと思ふ者は、樂天主義の方に傾かなければなりません。

説教者に及ぼす悲觀主義の害悪は、此迄御話した害悪よりも奸猾なるものであります。説教者の失望は確かに其説教に影響を及ぼし、其聴衆を失望せしめます。勿論時としてはエレミヤの哀歌、或は彼の悲觀的預言が、ダビデの或る勝利の詩よりも遙かに適當であるやうな時、即ち悲觀し

なければならぬ時もあります。然し概して言へば、之と反対が通常であります。教會は前進するように奨励されなければなりません。(書一)カレブとヨシユアは樂天主義であつたやうに見えますが(書一三ノ三〇、一四ノ六―九)其聲は聴かされなければなりません。而して此二人に反対して、敵の強きことと、其邑々を廻れる石垣の大なることのみを民に語りたる悲觀的説教者は、其民と共に自ら苦しみを受けるやうになります。(民一三ノ三二、三三、一三ノ二八、一四ノ三六、三七、一四ノ二八―三五)悲觀主義を最も良く愈すものは、上を見詰めることとあります。主は治め給ふ。(詩九七ノ一)地よ喜ぶべし。神の不變、全知、全能なる事、救の大將の最後の勝利、汚點なく皺なく凡て此の如き類なき新郎が(弗五ノ二七)其花嫁と偕なる時、即ち教會が主に遇ふ時の事、聖徒が大なる喜を以て神の榮光の前に疵なくして立つ時に(猶二四)全く潔めらるゝ事等を考へる事

又神は萬事を支配し給ふ事、萬物は神に倚り神に歸する事、羅十一ノ三六)此神は永遠に我等の神なる事(詩四八ノ一四)を思ふ事、即ち此等の事を思ふ事は説教者の靈魂の強壯劑となり而して地の事に由つて示されたる悲觀主義は、天の輝の樂天主義に少しも影響を及ぼさぬようになります。再び問者の例を引きますならば、『カレブとヨシユアは、巨人と石垣ある邑々を見て、十人の問者と違ふて、喜んだのではありますまい。……十人は自ら此境遇に對し、二人は神と偕に之に對しました。十人は其困難を見て神を判断し、而して「仕方がない」と云ひました。二人は神を見て其困難を判断し、而して「我等爲し得べし」と申しました。』(M. D. Babcock, in Thoughts for Every-Day Living, P.87.)

若し説教者にして悲觀主義に傾きつゝあることが分りますならば、哥林多後書第四章の終りの語を取つて、其格言とするならば宜しう御座います。

す。「我儕が顧みる所は見ゆる所のものに非ず見えざる所のものなりそ  
は見ゆる所のものは暫時しむらにして見えざる所のものは永遠かぎりなくければなり」。

二、自欺 前に論ずる他の習慣の如く、此は説教者自らに由つてより  
は、其聴衆に由つて、速に顯はさるゝものであります。他の習慣の如く、又  
説教を害するものであります。自らを「大なるもの」(徒八ノ九)と思ふ事は、  
時としては眞に天才ある人の中にもありますが、然し大抵は小人、即ち成  
熟して居らぬ人、或は成熟して居つても、心又は道德の能力が平均以下に  
ある人、或は然らざれば諺に云ふ井底の蛙の如く、非常に制限された眼界  
から、自分の周圍にある物を、少しゝか見ぬ人であります。ある名の知れ  
て居らぬユダ、或はテューダが「自ら誇りて大なる者」として、何時も多く  
人を引寄せて居りますが、(徒五ノ三六、三七)肩より以上民の何れの人より  
も高き(母前一〇ノ一、二二、二三)主の膏あぶら沃あふぎ給ふた者は、今も尙自らを行い李

の間に隠します。此習慣は酔ふて居る人に強くあります。其人は酒に  
酔ふて居つても、或は大なる企てであると想像せる事業の成功に酔ふて居  
つても、同じ事であります。故に此は屢々最も下等なる人の中にあるの  
てあります。

神が特別な才能を人に與へ給ふた時に、勿論其才能は之を受けた人に  
由つて認めらる可き筈であります。一般に其れは認められます。パウ  
ロは使徒の賜物を有つて居ることを知りました。デモスセネスは雄辯  
の力を有つて居ることを知りました。ナポレオンは勇士の力を有つて  
居ることを知りました。而してテニソンは詩を作る力あることを知り  
ました。然し此等の人々及び他の大人物には、謙遜しなければならぬ點  
も亦有りました。聴衆を保ち得る近世の説教者は、之を知り之が爲に感  
謝しなければなりません。然しながら其力に大なる義務の伴ふことを

記憶しなければなりません。而して義務の概念と力の其れとが、全く平均して居る説教者は實に幸福であります。

説教者を自惚れしむるものは多くあります。教會に於ける彼の位置は指導者の其れであります。彼は會衆の殆んど如何なる者よりも、靈の事に付て善く知つて居ります。或は善く知つて居らなければなりません。此點に於ては彼は専門家でありまして、専門家は概して人より尊敬を受けるものであります。彼の説教は餘り立派なものでなくとも、確かに或人より稱讃せられます。彼の神學説は極端なる保守説であつても、或は自由説であつても、確かに同じやうな心を有つて居る兄弟から讃嘆せられます。勿論反對の批評もありますが、然し彼は之を聞きませぬ。或は之を聞いても其れは敵意又は無智から生じたものであると思ひます。人から讃辭を受けた時に如何程遠慮深い答をしても、幾分か之を受ける

價值があると信じ易いものであります。度々彼は自分の教會外の人々から慕はれ、其人々が彼を知るまで、自分の牧師よりは少し良い、或は少し賢い、或は少し手練ののある牧師であると思はれることがあります。彼は度々其傳道地に於て、顯著なる地位を與へられることがあります。彼は結婚或は葬式を司らなければなりません。度々公けの集會に於て演説することを依頼されます。多分時々其地方の新聞或は自己の宗派の雜誌に寄稿することもあります。又斷えず公私の種々の事柄に付て相談を受けます。此等の事の爲に遂に自惚れるようになります。血肉の人に取つては、假令牧職にある者と雖も、此誘惑を全然逃れる事は、實に難事であります。ヒリップス、ブルックスは左の如く云ふて居ります。

『或る意味に於て、青年教役者は皆自惚<sup>つ</sup>て居ります。彼は自惚れた状態て傳道を始めます。少くとも人は皆初に其傳道の結果に付て過大なる豫

期を致します。我等は漸次其誤れることを知ります。説教を始める時先づ驚くことは、人が聴きに來ぬと云ふ事でありませぬ。暫くして、若し彼は長所があるならば、人か來ることを驚き始めます。……青年説教者の最初の自惚が振り動された時に、尙一つの逃場があります。此逃場とは最初のよりは小さい尙一つの自惚に入ることとあります。攻圍された家主が、降服することを拒んで、強き外部の壘もとより退却し、防禦しながら段々内に入り、遂に最も賤しい價値なき室内に立て籠ります。……小き説教者は非常なる非パウロ的方法に於て、其職を尊重します。而して諸君は誰も聴くことを好まない人が、人が聴くとも聴かなくとも、或は人が耐忍ぶとも耐忍ばなくともと云ふ神の嚴肅なる言葉が、エゼキエルに語られたるが如く自分に語られたるかの如く、之を引用するのを聞かれます。』(説教講演六〇、六二、六三頁)

昔から自惚を愈なほすことは、決して容易な事でない事が認められて居ります。(箴二六ノ十二)精神の錯亂して居る人が、錯亂して居る爲に、自分の頭の眞の状態を認めぬが如く、自惚れて居る人は、其自惚の爲に、眞に自分の心を知ることが出來ませぬ。若し之を愈す薬がありとせば、善くきくものは何時も苦い薬であります。(箴二七ノ二一、二二)左の事柄は説教者が自惚れて居ると否とに拘はらず、若し實行するならば有益なるものであります。殊に此點に於て自己の眞の立場を知らんと願ふ人には助となるものであります。

1. 上に述べました如く、説教者は意氣揚々たる時に、眞理の宣傳者として、神と人との對して、(哥前九ノ一六、一七、羅一ノ一四)大なる責任のある事を考へなければなりません。又如何ばかり主に負ふ所あるや、(來一三ノ一七)若し不意に取らるゝことあらば、彼は神の御旨によりて其時代の爲に

勞<sup>はたら</sup>役<sup>た</sup>きたりと録され得るや否やを考へなければなりません。2. 説教者は聖書に記さるゝ神の前に能力<sup>ちから</sup>ありし人々の模範を見なければなりません。基督てさへも己が父と一つなることを自覺せられ、(腓二ノ二八―八)神より出て、神に歸ることを知りて、(約一三ノ三一―五)僕の如く自らを卑らし、常に柔和にして謙りたる心を有つて御出になりました。(太十一ノ二九)異邦人の使徒パウロは、彼は充分なる使徒に非ずとの反對者の要求に讓歩して、(哥前九ノ一、羅十一ノ一―三、哥後十二ノ十二、提前二ノ七)等説教の力を弱めることは、假令一瞬間でも望む所では無つたが、此大なる職<sup>つとめ</sup>を爲すに足らぬ者であると明かに云ふて居ります。(哥前一五ノ九)大なる王ネブカデネザル<sup>か</sup>或は彼の大なる顧問家ダニエルの如き榮えを、近代の説教者が受くべきものとせば、前者が身を卑らしなければならぬようになつた事と、(但四)後者が自ら進んで身を卑らした事とは、(但二ノ

二七、二八、三〇)何れも説教者に謙遜を着るべきことを教へなければなりません。(彼前五ノ五)

3. リバイバルの時或は著しき成功の時に、説教者は幾人回心したとか、好い集會を開いたとか云ふ事を神の外誰にも成る丈け云はぬようにしなければなりません。若し眞にペンテコステの日があればルカ<sup>カ</sup>の如く之を録<sup>と</sup>す人が起りませう。其時神に用ゐられた事は、ペテロ<sup>カ</sup>に取つては充分なる名譽であります。或る説教者は回心者の數を早速通信致しますが、其葉書或は手紙の未だ讀まれぬ前に、其數は愚に求められたる名譽をよく現はして居る時ならぬ雪の如く融けて仕舞ひます。(箴二六ノ一)報告が必要である時は、出来る丈け實際を報告しなければなりません。勿論其中には説教者の個人的の働に付ては少し書くか、或は何も書かぬようにしなければなりません。眞理の境界内にて善いもので、確に主の榮

光を増すものは、報告しても差支へありませぬが、然し知慧の説教者に語ることは、汝おのれの口をもて自ら讃ることなく、人をして己を讃めしめよ箴二七ノ二と云ふことであります。

4. 人と交はれ。出来るだけ教役者會に出席しなさい。他人がして居る事、殊に善事に注意しなさい。大學生活の大なる利益の一つは、學校にて多分指導者である學生に、自分の組の青年中には、多くの自分と肩を比べ得る者と、尠からざる優秀者があるを示す事であります。教役者の俱樂部では、互に批評し、互に教示する所があるから、之と同様なる利益を與へます。説教者は只説教者ばかりを研究す可きものではありませぬ。彼は傳道しつゝある都市の名ある人々をも研究しなければなりませぬ。彼の恩愚めぐみは、此等の人々を救に導かなかつたかも知りませぬ。而して或る者は彼の祈禱と憐憫の目的物であるかも知りませぬ。然し其人々と

比較すれば己が事務の才能の僅少である事、其人々は或る問題を立派に解釋するに自分は其研究の極めて不完全である事、此世のある子供等の努力の熱心と比較すれば路一六ノ八光明ひかりの子供として己が努力の甚だ冷淡である事等を注意しなければなりませぬ。彼は後方の席に座して黙考しなければなりませぬ。路一四ノ一一、一八ノ一四、又來一〇ノ二四をも比較せよ。

5. 機會あらば其時代の小説教者、大傳道者、大雄辯家の説教或は演説を御聞きなさい。地方的名譽を博した説教者が、此等の謙遜なる眞理の戦闘者に耳を傾くる事は、嘗に其人の精神を鼓舞する而已ならず、非常なる利益を與へ又其心を謙遜ならしむるものであります。ロバート、ホールは十六才の時より六十六才の時まで、殆んど比儔たいりうする者のないバプテストの説教者であつたが、一度有名なる長老教會の説教者ジョン、ミツチエル、

メロソンの説教を聴くために、ロンドンに往きました。其時説教の題は、メシヤの玉座(來一ノ八)と云ふのでありました。集の終つた後に、ロバート、ホールは自分は二度と講壇に立つまいと斷言致しました。彼は數日の後に全く違ふ性質の人から説教を聴きまして、此點に付ては心を變へました。然し喜んで胃を脱がしめるやうな人の説教を聴く事は、此大説教者に取つては、善い事でありました。(バチソン氏基督教説教史三八九、三九〇頁)アビメレクはペリシテ人の王とされた時には、確に傲慢な心を有つて居りましたが、彼がイサクを知るようになつて、汝は大に我儕よりも強ければ我儕をはなれて去れ。と彼に申しました時には、以前よりは遙かに賢い人でありました。(創二六ノ一六)

三、怠惰 説教者は概して多忙な人であります。朝から晩まで又屢其僅かな時間にも働をしなければならぬ事があります。或る説教者の

生活よりも猶一層勤勉熱心なる生活を見出すことが困難であります。然し之に反してストーカー博士の私は教役者の生活は其他の職業を取れる人のそれよりも猶一層怠惰なるものであり得ると想像致します。即ち若し彼が本心を有たぬならば、説教者及び其典型二二二頁との言の如くなることもあります。茲に傳道事業に屢見る所の過勞に付て、注意する事が或は適當であるかも分りませぬ。然し『休息の必要』を論じた時に、此事は最早充分に申上げたと思ひますから、茲には働き過ぎる人に利益となる爲に、ヴァン、ダイク博士が怠惰は一つの徳である。……其れが敬虔にして祝福せられたる心的状態でさへある時がある。急ぐに非ず。功名の心、嫉妬の心、憤怒の心を有するに非ず。誰をも羨む心を起さず。今日の事に付て眩かず、明日の事に付て思煩はず。——我々の生涯の中或る時斯く感じなければならぬ時がある。と云ふた語を附加し置く



に留めます。(漁夫の好運一九二頁)

悲しいこととて又殆んど不思議なことは、何時も他の極端に馳せる説教者があることとてあります。彼等は基督教國到る處にありまして、新生教會の熱心が最初衰へ始めて以來教役の邪魔になつて居るものであります。ジエームス第一世の御宇の英國の狀態は、多分最も悪い狀態に陥つた時で、其時に記録された事實は何時の時代にも、如何なる國にも教訓を與へるものであります。一地方の教會の報告によれば、其國に「説教者、非説教者及び醜行の人」と云ふ三種の教役者がありました。其報告は隠す所なく明らさまに事實を記して、此第一種の教役者を更に充分なる者百二人、弱くして益なき者二十五人、不注意にして怠慢なる者二十人、腐敗した健全でない者六人に區分して居ります。(バチソン氏基督教説史三四七頁) 此等の「腐敗した健全でない者」は「醜行の者」と別の人でありますから、其の

意味は多分教理が健全であると考へられぬ説教者を指したものでありませう。此報告の中に、「不注意にして怠慢なる者」の多くの數が記されてありますから、それで之を茲に引用したのであります。「此事をガテに告ぐる勿れアシケロンの邑に傳ふるなかれ恐くはペリシテ人の女等喜ばん恐くは割禮を受けざる者の女等樂み祝はん」。(母後一の二〇)

説教者は時としては出来る丈働いて居るのに誤解されて怠惰であると思はれる事があります。(昔宗教は怠惰に其根底を有するものであると譏られました。(埃五ノ二一七)彼は病氣であるとか、或は營養不十分であるとか、或は疲労して居るとかの爲に、充分働く事が出来ずして人から批評される事もあります。或は彼の働の方法が觀察者のそれとは異り其騒々しいのに比較すれば極めて静かでありますから、それで活動せぬとの不法なる譏りを受けることがあります。然しながら電線は何の

音をも發しませぬけれども八釜しい音をして流れて居る小川よりも實際の働をする爲に、其れを流れて居る強き力を有つて居ります。故に人は今論じて居る事柄に付て説教者を批評するに遅くなければなりません。然し説教者は皆批評の試験石を自らに適用するに早くなければなりません。確かに此聖職に能力ある人で、今は眠り、サムソンよペリシテ人汝におよぶ。との語を聞いて眼を醒して起たなければならぬ多くの人があります。(士一六の九、一四)

怠惰の源因の主なるものは、多分三つてあります。第一は精神或は身體<sup>だ</sup>或は兩者の麻痺状態でありまして、此れのみが原因となつて居ることがあります。第二は何か變化がなければ働くことが出来ぬと思ふことがあります。即ち詩人が感興の起るを待つが如く、インスピレーションの生ずるを待たなければならぬと思ふことがあります。第三は半分眠

つて居る説教者が、實際既に働いて居るのに、其れ以上働けと云ふのは無情であると言ふ夢のやうな考を有つことがあります。

今一寸此三つの事を其順序に従ふて考へて見ますと、第一の例は澤山——多過ぎる程——如何なる職業の人にもあります。實に歴史は國民も又個人も自然に麻痺状態に陥るから、其潜める生命を發展せしむる爲に或る震動、即ち財政の危機、或は騒亂、或は多分戦争、或は他の荒き覺醒がなければならぬ事を示して居ります。説教者の麻痺は肉體的或は精神的である事があります。時としては休息に付て無頓着である爲に起ります。若し説教者が夜眠むる可き筈であるのに、始終働いて自然を破りましますならば、自然は報いて彼が晝働く可き時に、何時も眠たく感ずるようにな致します。少くとも此が自然の第一歩であります。或る説教者は全然靈的覺醒をしたことが無つたようであります。彼等は尙半睡眠状態に

あります。神に感謝す可き事は、斯る状態に在つた人で今はさうでない人のある事でありませぬ。「心靈の力が肉體の力と共に覺醒される時は幸福であります。靈魂が活動し激動される時、野の花が朝風に由つて動揺されるやうに、感情に由つて動かされ、震はされる時は幸福であります。其時に快よき香氣を放ちます。」(ヘンリー、ザアン、ダイク詩篇物語五〇頁)多くの説教者は覺醒前長い間働を致しましたが、然し覺醒後は丈夫の如くよく働きました。(母前四の九、哥前一六の一三)斯う云ふ例は澤山あります。ヨナの如く眠つて其耳を鈍くし、其召を聞かぬことの出来る説教者、又ヨナの如くてなく、神が搖起さんが爲に遣はし給ふ大なる嵐、即ち説教者が神に従はぬ時に頼みとしたかも知らぬ人の呼聲や嘲弄に心を留めずして眠つて居る説教者は實に禍であります。(拿一の一—六)大説教者は何時も大に覺醒して居つた者であります。スボルジョンは申しました。

した。

「如何にホイットヒールドが説教したかを聽いて、再び昏睡せぬようになければならぬませぬ。ウインターは彼に付て斯う云ひました。『時として彼は非常に泣きました。度々數分間泣き止まないと思はれる程泣きました。泣き止んだ時には、直ぐ元の通りになりませぬでした。私が説教を聽きました時には、何時も多少泣かぬ時はありませぬでした。彼の聲は度々感情の爲に跡切れました。私は彼が講壇で、諸君は私が泣く事を責めるが、諸君の不朽の靈魂は滅亡の淵に沈まんとし、諸君は最後の説教を聽いて居るので、再び基督の事を聽く機會がないかも知らぬのに、諸君は自らの爲に泣くことをしない。それにどうして私は泣かずに居られるであらうか。』と云ふのを聽きました。」(我學生への講義第二編第八講)

第二種の説教者は多分第一種の者よりも多くありませう。此人々は時々働を爲し、又熱心に働くことを樂む善い人々でありますが、然し自分の氣分に從ふて働く者であります。日本では以前大工や他の職人が天氣の時丈け働いて雨天の時には何もする必要がないと思ふたやうに、此説教者もインスピレーションを受ける時に説教の準備をすることが出来るとか、或は氣分が爽快にして強く感ずる時に訪問をすることが出来るとか思ひます。講壇の準備をする時には、インスピレーションのある可き筈であります。而し其は上より來るもので説教者の心持に依るものではありませぬ。訪問をする時は、爽快にして強くなければなりません。然し此爽快なると強くあるとは神の賜物でありまして、肉と血との産物ではありませぬ。ヒリッブ、ブルクスは左の如く云ふて居ります。「説教者の第一の務は彼の心持の壓制に打勝ち、而して何時も喜んで働く

こととあります。此は出來得る事とあります。之を爲すことを學ば無つた人は、實際イエスの秘密に達し無つた人であります。イエスの秘密とは、神の力が己を通して人に降らんが爲の媒介としての外は、全く己に付て考へ給はなかつた程、彼の父と人とを愛し給ふたこととあります。イエスは度々精神疲勞し給ふたと書いてあります。時としては其働を終へ給ふた時に、全く疲勞れて御出になつて、山に退き給ふたことがあります。又湖の上に小舟で出て給ふたことがあります。……斯ふ云ふうちにも少しも自分の氣儘に爲し給ふたことがあります。氣持がよくないと云ふ理由で説教を爲し給はなかつた日は、一日も無つたと確信します。……我々にもさうであるかも知りませぬ。我等をして説教を爲すに不適當ならしむる心持或は説教せんとする我等の意志を實際弱くならしむる心持は、惡しきものでありまして之に勝つことが出來ま

す。其時は良心を鼓舞しそと丈夫らしくある可き時であります。(ヒリップ、ブルクス説教講義六六、六七、六八)

怠惰の第三原因は、多分第二よりは猶一層説教者を欺くものでありませう。定まりたる時刻には必ず説教者は其書齋に入り、棚より或る書物を取下し、手近にある其他の器具を以て自らを圍み、而して其定めたる時間内に忠實に勉強を爲さんと決心致します。然し怠惰を防ぐ爲に此は充分でありませうか。多くの説教者は自分の経験より否と答へなければなりません。人が只道具を有つて遊んで居りながら働いて居ると思ひ、自ら欺くことは容易なことであります。

概して善き書物を研究する者は、善き學生であります。然し或る人は極めて抵抗の少い位置に立つて困難なる研究を要求する書物を退け、只面白い書物のみを読み、遊戯を觀て時間を費すやうに時間を怠惰に費しま

す。自ら遊戯をしたのでありますならば、それ程ではありませぬでしたらう。又説教者が説教の直接の準備に用ゆべき時間に書物の研究を侵入せしむることがあります。其れは假令善き書物であつても確に有害であります。彼は説教を以て自らを充たす代りに、書物の教を以て自らを充します。即ち消化と同化との爲に滋養を採り過ぎ、労働者が食ひ過ぎた爲によく働けぬやうに爲つたと同じく、靈的働を爲すに不適當なる者となることがあります。ペーコンは申しました。「勉學に餘り多くの時を費すことは懶惰である。或る書物は味ふ可きもの、或る書物は呑込む可きもの、或る少數の書物は噛み消化す可きものである。即ち或る書物は只其中の或る所々丈けを讀むべきもの、或る書物は讀む可きもの、然し好奇心からでなく、或る少數の書物は、全體勤勉と注意とを以て讀むべきものである。」(ペーコンの論文研究論)若し人が食ふ爲に一日を

費して、之に應ずる働を爲して其食物を利用しませぬならば、我々は彼を食を貪る者と呼びます。人若し其時間を讀書に費して、其讀んだ事を、智的働の爲に利用しませぬならば之より勝れる名を受くべき價值はありませぬ。即ち彼は本蟲ほんむしに過ぎませぬ。

心を集中して、自分の時間を、最も善き事に用ゆるは、大なる技術にして、教役者には最も貴き上達であります。然し此點は既に申し上げました。教役者の怠惰より生ずる害悪は、様々であり、又明白であります。其二三を記せば、

1. 『怠惰なる説教者は、直ぐ其教説に由つて知れます。即ち其説教に變化がありませぬ。よし變化があつても僅かであります。彼は其實庫じふくから新しいものと古いものを出すことが出来ませぬ。悲む可きことには、彼には寶庫たからぐらはありませぬ。彼の箱は皆空虚かかであります。一人の説教

者が善き教育を受けた敬虔なる説教者アンヅル、トムソンに一度申しました。「君は才能もあり又すぐ話すことも出来るから説教に多くの時間を御費しになりますまい。私は朝食前あさめしに説教を書き又鮭を料理したことが度々であります。勤勉なるトムソンは答へて、さうでありますか、私は君の説教を聴くよりも鮭を食べたいと思ふ。」と云ひました。(基督敎説教史二八九頁)此種類の人は、同じ本文に付て、二三十年前と同じ説教を致します。其れは全く同じ説教であつて、新思想は一つも加はつて居りませぬ。(アダム、クラーク博士説教者への書簡)

2. 人若し働かざれば食ふべからず。(撒後三ノ一〇)とは神の大なる法則の一つにして、特に神の人として説教者に適用されるものであります。俸給を貰ひながら之に應ずる働をせぬ説教者は、寄生動物の如きものであります。ドラモンド教授は、寄生及び半寄生と云ふ章に、此孰れかの中

に類別し得る状態にある動物は、之が爲に害を受けて居ることを示して居ります。此害は時としては道德性に影響を及ぼし、常に或る官能或は諸部分を失はしむるものであります。彼は云ふて居ります。

「寄生動物は自然界の寄食者であります。彼等は自己の食物を發見する爲に勞することなくして、勤勉者より之を借り或は盜むものであります。自然界に於ては此傾向が深く根ざして居りまして、植物も動物も寄生的になり、而して乞食のあらゆる状態を現はし、或るものは自分の爲に少しばかり力を盡しますが、猶一層卑しきものは、自分の食物をこしらゑることすら拒みます。……此靈的原则は次の如くであります。即ち自身の努力、或は官能の重要な活動なくして、個人の安全を得せしむる主義は如何なるものであつても、道德的品性を傷くるものであります。

……寄生的習慣を生ぜしむる二つの原因が、生物學者に知れて居り

ます。第一は官能の重要な活動なくして、安全を得んとする誘惑であり、第二は働かずして食物を得んとする性質であります。……故に斯くの如く一般の原則を作ることが出来ます。働の費なくして、個人に食物を得せしむる主義は如何なるものであつても、有害にして、且退化と諸部分の死亡とを之に伴ふものであります。(靈界に於ける自然の法則三一七、三二六、三四七、三四九頁)

3、怠惰より生ずる第三の悪結果は、様々なる誘惑に導く途を開き、理想的有用なる生活に至らしむる途を閉づるものであります。マシユー、ヘンリーは「サタンは其誘惑を以て、怠惰なる者に來ることを選ぶ如く、基督は其召を以て働いて居る人に來ることを選び給ひます。」(ブローダス英文馬太傳註解九ノ九―十一)有てる者には與へられ、有たぬ者は有てりと思ふものをも取らる可しと、主の教へ給ふた大法則は、個人の生涯にも、人

と人との諸關係の中にも行はれて居ります。(路八ノ一八)商會で信用の出来る書記を捜す時には、何もして居らぬ人の中を捜す事は稀であります。何かして居る人を得たいと思ひます。學校で有力なる教師を得たいと切望する時は、其位置を願ふ人でなくして、活動して居る現在の地位を捨て、來て呉れるやうな人を取ります。教會が牧師を得たいと思ひ、其牧師たらんことを切望して居つた人を推薦したことも度々ありますが、然し大多數の教會は、少くとも、其當時何もして居らぬ人を試に用ゐて満足することは稀れてあります。働を得る最も確實なる途は、働を爲すこととあります。將來の成功に至る最近の途は、現在の成功を得ることとあります。『仕事をして居らぬ人』は仕事を得るに最も困難な人であります。奮闘せんことを望む説教者、善き戦を戦はんことを願ふ説教者は、進歩する大であります。若し鯉が川を上らなかつたならば、日本や支那

で、男子があるべき筈のもの、又爲すべき筈のものを表はす表號として之を選ばなかつたてせう。或は昔から毎年五月五日に日本國中至る所に鯉の幟を立てなかつたてせう。基督は獻身克己の生涯に凡ての人を召し給ひますが、殊に信仰の善き戦を戦ふ爲に説教者を召し給ひます。彼等は勝利を得なければなりません。然らざれば最も恥づべき失敗を取らなければなりません。校長イー、ジー、ロビンソン博士は、卒業式の説教の終りに、卒業生の方を向いて、左の如く云ひました。

『諸君は被征服者となるか、或は勝利者となるか、孰れかになるのであります。諸君は自ら選ばなければなりません。諸君は皆其境遇、其誘惑、其危難の如何に拘はらず、勝利者となることが出来ます。諸君には眞の人となる力量があり、凡てのものを征服する能力があります。イサカルの如く愉快なる事を以て満足し、人生の重荷に堪へずして伏しますならば、世



は亂暴なる蹄を以て諸君を踏み、墓の中に投込み、而して人は諸君を忘れて仕舞ませう。然しながら諸君が茲にあつて學びつゝあつた眞理を覚え、忠信なれと諸君に云ひ給ふた神、如何に生活すべきかを諸君に教へ給ふた基督を覚えて、諸君は皆成功の生涯を送り、其終りに「我は馳るべき道程を盡せり、我は此世に生を享けたることを神に感謝す」と云ひつゝ平和に眠ることが出来ます。』(卒業式の説教二二〇、二二二頁)

不思議に思はれるかも知れませぬが、怠惰の習慣が、時として神學校で作られ或は強められる事があります。神學校は斯る習慣を匡正する所であらうと人は思ひませう。忠信なる學生の爲には神學校は斯る場所ではありません。然し時々生來或は其れ迄に受けた教育の爲鋭敏なる學生が入りまして、同級生ほどに時間を使はず勞力を用ゐずして學課を修めます。彼は之を更らに高等なる學課を修め得る理由と思ふ可き筈であります。

ますが、さう思はずして、時としては之を怠惰の言譯と考へます。其結果神學校の勉強は他の學生に益になる程其學生には益になりませぬ。若し彼が一意専心努力したならば、多分他の學生等よりも遙かに大なる利益を得、而して將來の成功の道を自らの爲に開いたてありませう。ヤラベアムが段々昇進して遂に王位にまで昇るようになつた原因は、ソロモンが此青年の勤勉である事を見たからであります。(王上十一ノ二八)然るに今御話して居る才能ある學生は、反對の方向に往くことを選びます。彼は見事に戦はんが爲に、下より自分の手と足とに由つて、岩石の絶壁を登るよりは、(母前一四ノ一三)安全に遁れんが爲に、自分の手よりも弱くあると知つて居る所に由つても、上より柔かに下されたいと願ふ者であります。(書二ノ一五、母前一九ノ一二)斯くの如き學生に神學校より與ふる正直なる證書は、勿論其學んだ學課の承認を與へますが、然し、彼等

は其上に怠ることを習へり「提前五ノ一三」と附録の如く、附加へるであらませう。

著者は説教者の養成に二十五年以上の経験を有つて居る今日、神學校に於て怠惰であつた學生は、其後の生涯に於ても通例怠惰であつたと云ふ事、然し勤勉であつた學生は、一般に其後も引續いて有益なる生涯を送つたと云ふ事を證すべき筈であると思ひます。怠惰なるものが、教役者の中に無かつたならばよかつたてせう。我等皆身に於て爲したる行爲の計算を爲す爲に主の前に立たなければならぬのであります(哥後五ノ一〇、羅一四ノ一〇)其時主が公平なる正義に由つて、説教者を「怠れる僕」(太二五ノ二六)の階級に入れ給ひますならば其説教者には其大なる試験日は、實に苦しい日でありませう。

四、神經過敏、此問題は此れ迄の御話の中に一寸申し上げましたが、

然し詳しく論じませぬでした。

説教者の神經過敏とは如何なるものなるかは、スボルジョンが疑はしい説教者の事を記せる記事を見れば分ります。即ち

「蜘蛛の如く、彼は細い糸を出して網を張りますが、其糸は皆自分の所に集つて居りますから、極く小さい蟲が、一寸觸つても自ら警戒致します。彼は其中心に座つて居りますが、感情の塊にして、悉く神経と生傷とでありまして、激し易く又激して居ります。自ら犠牲となる殉教者が自分の周圍に燃ゆる薪を集めて、焼かれんことを望むが如く思はれます」(Lectures to my Students, Second Series, PP.170,171)

此状態はルーテルが教役者の資格として擧げて居る其第十の資格、即ち「彼は各人に苦められ、批評せられることを忍ばなければならぬ」と云ふのと全然相違して居ります。

若し説教者が相當の感覺を有つて居りますならば自分の祝福となります。少くとも自分の教會の信者の祝福となります。暗示を悟ることが出来にくい愚鈍な人、感謝の笑或は侮慢の顔色を辨へぬ人、凡ての事を黒と白とて書かなければならぬ人、或は明かなる語を以て語らなければならぬ人、斯の如き人は決して同情ある説教者ではありませぬ。自分の牧して居る信者の重荷を負ひ得る爲に、眞に「仁慈ある者」(弗四ノ三二)となる爲に、説教者は疲勞れたる顔色、痙攣したる唇、潤ひたる眼、紅を潮せる頬、或は内心の苦悶を表はせる顔付等を知り得る程感覺を備へて居らなければなりません。又此れ以外に何等の説明をも求めずして、如何にしてよく慰め、よく勵ますかを知つて居らなければなりません。只斯くの如くにして初めて人には奉仕の天使となり、(加四ノ一四)人の苦みを負ひ、其悲を擔ひ給ひし主の御生涯を、再び此地上に作出すことが出来ます。(賽五

三ノ四)彼は其代價として、他の人々が或は注意せぬかも分らぬやうな事を時として感ずる所の神経、又冷い語によつて冷され、或は熱い語によつて湯傷される心を有たなければなりません。多くの同情心のない人は此二つの語の相違を發見致しませぬ。然り彼は同情力を得る爲に代價を拂はなければなりません。然し彼が買ふ所のものは其代價に價する所のものであります。

誰でも殊に感覺の強い人は、若し説教が此世に於て少しでも成功するならば、自らが不當なる批評の目的となると云ふ事を悟らなければなりません。我等の主、バプテスマのヨハネ、パウロ、クリソストム、ウキクリフ、ルイテル、ノックス、カルビン、ウエスレイ、モノツド、ピーチャイ、ムーデー及び凡ての信仰復興者、及び有力なる牧師は、皆人から批評された者であります。説教者が如何なる行爲をしても、如何なる人であつても、之を遁れる

ことは出来ませぬ。『牧師が……眞面目である、人は愉快でないとか愚鈍であるとか云ひます。之に反して樂しげにやつて居ると、全く輕躁過ぎる』と申します。若し自分の事を注意してやると、俗物であるとか、金錢を餘り好み過ぎるとか云ひます。若し金錢上の事柄に付て争ふやうに見えるよりは寧ろ沈黙して欺かれる事を甘じますならば、人は非常に善い人であるけれども……事務に疎い人である。常識のない人である。』と申します。』(ブロードス英文馬太傳註解十一ノ一八)

多數の場合に於ては、説教者を攻撃する人は、二つの種類に屬する者であります。第一の種類は、眞理の敵より成れるものでありまして、説教者を好まぬ理由は、説教者の宣傳する教、或は基督を好まぬからであります。(約一五ノ一八、一七ノ一四)此は主の預言し給ひしこととて、之を受くる説教者は、名譽と思ふてよろしい。(太一〇ノ二五、二六)彼はソウロの如く、ペリ

エルの人々が語る時に、沈黙を守らなければなりません。(母前一〇ノ二七)如何に其嘲弄が劇しくあつても、其攻撃が理由なきものであつても、其誹謗が恥辱を與ふるものであつても、其非難が甚しくあつても、ペルゼブルの使、惡鬼の首かしらである、と誹られ給ふた主イエスは、最も神經の強い説教者の充分なる慰となり、又充分なる報酬となり給ひます。

第二種の批評家は、全體でなくとも、主として、信者から成立つて居るものであります。此故に其批評は一層堪へ難いものであります。(詩五五ノ一二—一四)彼等が批評するのは、自ら靈的でない爲、或は説教者の眞價を認めぬ爲であることもあるし、又争論の點に就て、説教者よりも善く知つて居る爲、或は説教者自身は知つて居らぬが、説教者に眞實過失あることを見出した爲であることもあり、故に彼等の批評は説教者自らが評價するよりも遙かに價值あることがあります。(箴二七ノ五、六)ヴァン、

ダイク博士は如何に批評を評價すべきか、敵を評價すべきか、非難せられ、悪口せられる時に、之に由つて益を得べきかを學べ。……諸君の信仰と感情とが攻撃されるまでは、其れが眞實であるか否やを諸君は語ることは出来ぬ。(人生の學校三三頁)と云ふて居ります。勿論説教者のみが批評を受けるのはありませぬ。選舉運動の時には、最良の政客でも敵の黨派より非常に攻撃されます。法律家、醫師、軍人及び政治家等も批評されます。實に公生涯を送つて居る凡ての人は、其高き地位の爲に、人々の前に著しく其過失を現はされます。勿論其過の中には、眞實のものもあり、さうでないものもあります。若し教師等が自分の生活に就て、世間の人々がどう云ふやうに噂して居ると云ふことを知つたならば、今日のやうな生活を送ることはありますまい。私は此國の教師の四分の三は、辭職するであらうと度々考へます。(説教者及び彼の典型九頁)

既に申し上げた通り、説教者が批評を聞く時には、靜かに之を考へて其價値を評價することが上策であります。若し其れが自分に屬するものならば、之を受け、之に由つて益を得なければなりません。若し關係のないものならば、之を投棄して、之が爲に心を亂してはなりません。只其批評者に對しては、益々親切を盡さなければなりません。哲理と宗教は斯く教へて居ります。其哲理を近頃一人の著者が左の如く述べて居ります。「神經過敏なる人は、若し人が自分を好まぬならば、其れは無遠慮にも我意を貫かんとするからであるかも知らぬことを認めなければなりません。又他の人々は彼の事よりは、自分等の事に、多く興味を有つて居る事を認めなければなりません。而して彼等の評論がどれ程劇しくあり、彼等の批評がどれ程不當であつても、又此等がどれ程深い感動を與へる事があつても、只過去る所の出來事に過ぎないと云ふ事を知らなければなりません。

せぬ。

彼は若し二人の者が小聲で話しをして居つても、必ずしも自分の事を話して居るのでないと云ふ事、又若しさうであるとしても、其れは取るに足らぬ事、其人の禮儀を知らざることを示すに過ぎぬと云ふ事を認めなければなりませぬ。公けの場合に於て、他の人々は彼に就て考へ、彼が如何なる舉動をするかを考へるやうに、自らに就て、又考究の問題に就て考へて居る事を認めなければなりませぬ。若し彼が何かつまらぬ事をして、他の人々の上に只過去の所の印象を興ふるに止まる事と、其れが爲に人々は彼を好まなくなるやうな事のない事とを認めなければなりませぬ。

彼は其思想を具體的に現はすことを練習しなければなりませぬ。若し批評されるなら、其批評は正しいか、或は正しくないかと自問しなければなりませぬ。若し正しければ、之を受け入れ、之に従ふて行はなければなりませぬ。若し正しくないならば、批評家を分類して、不道理の者、無思慮の者、或は悪性の者と云ふやうに別ち、自ら適當なる心的状態を保ち、其批評を棄て、自分の往くべき道を進まなければなりませぬ。此は最初は困難であります、若し孜々として怠らぬなら、次第々々に自動的となり、心配の源を實質的に變へて仕舞ひます。(何故心配するか二四六頁―二四八頁)

今其宗教的見解を示す爲に、二人の有名なる人の事を述べませう。其一人はスボルジョンで、自分の遣方に就て左の如く云ふて居ります。「私は自分に對して幾分か不平のある事を知つた時には、止むを得ざる場合の外は之を打ち棄て、置いて、此れまでよりも猶一層禮儀と親切とを以て、反對者を待遇しました。そして其後其事に付て何も聞きませぬでした。

若し私が善き人を反対者として取扱ひましたならば、彼は敵として出来る丈け自分に反対致しましたらう。然し私は彼は基督信者にして、若し適當と思はゞ、私を嫌ふ権利を有てる事と、若しさうしても私は彼に對して不親切なる心を懐いてはならぬ事とを感じました。此故に彼を我主の友として取扱ひ、彼に於ける信用を含む或る働を與へて之を爲さしめ、心置きなく感ぜしめ、斯くして漸次親密なる友人又同勞者とならしめました。(我學生への講演第二、一六九、一七〇頁)

も一つはクロザー神學校の校長であつたウエストン博士の事であり、ます。エス、シー、オーラム氏は博士に付て一千九百九年三月六日發行のスタンダードに左の如く云ふて居ります。

「彼がニューヨークの自分の教會の初めての祈禱會に出席した時に、一人の兄弟が起ち上つて、自分は彼を招聘する事に反対の投票をしたが、今も尙教會は誤をしたと思ふて居ると申しました。集會が終はるや否や、此新牧師は急いで其兄弟の側に往き、其手を取つて、打明けて、實際此家の中で物の分る人間は、只君と余と丈けてある。我等兩人は、余が此教會を爲すに適當な者でない事を知つて居るが、然し兄弟等は皆我等に反対をしたから我等は多數に従はなければならぬ」と云ひました。其時から博士に反対する者はありませぬでした。此老人が此事を話しました時に、狡猾なる瞬きをして、我等には少しの手練がなければならぬ」と附加へました。(一九〇九年三月六日發行のスタンダード)

然らば説教者は皆喩へて云へば心の骨化、即ち精神の無感、即ち彼を其周圍より隔離し、無言の同情の電流を、容易く受け、或は送ることを得さらしむるものを警戒しなければならませぬ。然し神經過敏の人は、肉を以て掩はれて居ることは、其内にある凡のものが、神の賜である如く、此も神の

賜てあることを覚えて、其心の外皮が外部の大氣に暴露されても堪へ得るまで、之を硬くする修練を積まなければなりません。

此他に作らなければならぬ、或は避けなければならぬ習慣がまだありますが、讀者は必ず之を悟らるゝてありませう。今迄論じたものは、著者が多少知つて居る説教者を觀察して感じたものであります。此講演には避けなければならぬ習慣の方が、作らなければならぬ習慣よりも多くあります。然し前者に付て過ある説教者は、後者の爲に尊敬せらる可き説教者より少いかも知れませぬ。

習慣の問題は、甚だ興味あり且重要なるものであります。或る人は、最高の智力を備ふる者は、習慣の力に由つて活動することが最も少い者であると考へます。假令ば我等の天の父は習慣の力によつて何事かを爲し

給ふと想像することが出来ませぬ。之に反して智力を欠ける動物は、屢々自分以外の理性より形成するに至つた習慣に由つて主に動作すると思ひます。故に「習慣は……實在物の最高の官能に欠ける所あることを告白するものであります。此官能は周囲の境遇を充分に観て斷えず自ら決心することを含んで居る。」(オリヴァー、ウエन्दル、ホルムス)とは、或は眞理であるかも知れませぬ。

此思想は自己改良の爲に利用することの出来る最も大切なる要素を暗示します。「間斷なき決心」が、神が常に喜んで與へ給ふ助に伴ふ時は、説教者をして悪習慣に打勝たしむるものであります。勿論習慣の初めて作られた時、そして彼自らが青年の力を有てる時に、斯くすることは彼に取つて最も容易<sup>たやす</sup>う御座います。然し哲學も又宗教も、老年の者と雖も此點に於て、自己の主となり得るとを教へます。「經驗は、如何なる年齢の人と



雖も、新知識及び新習慣を得んと企つるを價値あると思はば、之を得ることが出来るると示して居ります。老年の人は自己の心の有用なるを疑はず、自己の才能を疑はず、貴重なる時間を浪費して居らぬかと心配せず、過去の爲に悔まず、將來の爲に謀らず、只一心不亂に新問題を研究するならば、其進歩を驚くてありませう。(Why Worry PP. 68, 69.)

間斷なき決心、即ち永久の警醒は、悪習慣に打勝つ成功の價であります。決して容易なる仕事ではありません。時としては最良の人でも、僅か一時間警醒して居るのが困難とがあります。(太二六ノ四〇)勿論悪習慣を作らないに越したとはありません。著者は此書物を書いて居つた時に、度々建築中の教會の前に立つて、幾度も幾度も煉瓦を一時支へて居るものを見ました。其煉瓦が動かないようになりませうなら、其れは取られて仕舞ふのであります。此事からコレリツジが何處かに書

いて居る語を思出しました。

「石造のアーチを作る時には、之にかたみいし要石を入れる迄は、木を以て支へて居ります。丁度サタンが快樂を以て悪習慣を作るのも之と同じ事でありませう。悪習慣が充分に作らるゝ迄、快樂は繼續します。然し其通りして悪習慣は永久に残るかも知れませぬ。快樂は薪とされて仕舞ひますが、地獄は此世から始まります。」

コレリツジの此例證は、只悪習慣にのみ適用しますが、然し建築中の建物に由つて示めさるゝ例證は、善い習慣にも悪い習慣にも同じやうに適用されます。「習慣は我等の同盟者、或は我等の敵であります。若し享有したる傾向と、獲得したる外部の基督教的徳の基礎の上に、其内的源泉に於て基督の如くあり、又同胞の身體及び靈魂に對する奉仕に於て基督の如くある高尚なる品性の建物を築きますならば、其れは我等の同盟者であ

ります。若し享有したる悪しき傾向に従ひ、而して基督者の達すべき最高の理想に反対せる諸々の習慣に断えず抵抗せずして従ひますならば、其れは我等の敵であります。」(Henry E. Robbins, DD., LL. D., in the Ethics of the Christian Life, p. 436.)  
墮落せる状態に於ける贖はれたる人には、習慣は突進せる汽車の鐵道に於けるが如く有益なるものとなる場合があります。

此章を読む説教者は誰かと教會の席に在ると想像し、而して其人を一時自分の牧師であると考へなさい。然らば自分は其牧師が如何なる習慣を作り、如何なる習慣を避くるとを願ふや、又其牧師が自分の願ふ通りするならば、自分は其れが爲に如何なる影響を受くるであらうかと自ら尋ねなさい。更らに自分が席に在る時に此點に付ての自分の願望を悉く總

括する一般の原則はなきか、自分が再び講壇に立つ時に此點に付ての自分の義務を悉く總括する一般の原則はなきかと自問しなさい。若し彼が斯るものを見出すとせば、多分主イエスが彼の金言の中に語られて居る言葉の中に其實質が表はされて居るを見出すてありませう。此講演の最初の三章は二つの大なる誠まことの第一に含まれて居る思想を發展したものであると既に知りました。而して若し第四章が此等の誠まことの第二に含まれて居るとが分りますならば、既に申し上げました全體の總括として敬しく左の語を繰返すとが出来ます。即ち

「爾心を盡し精神を盡し力を盡し意を盡して主なる爾の神を愛すべし。」

「爾己の如く隣を愛すべし。」

說教者 畢

大正元年八月十五日印刷  
大正元年八月十八日發行

譯者  
發行者

高橋楯雄

東京府豊多摩郡大久保村大字西大久保四拾九番地

印刷者

青柳十一郎

東京市牛込區市谷加賀町壹丁目拾貳番地

印刷所

東京市牛込區市谷加賀町壹丁目拾貳番地  
株式會社 秀英舎第一工場

325  
162

325  
162

終